

年
報
平成二十年

年 報

平成20年度



財団法人
山形県埋蔵文化財センター

平成21年5月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

平成20年度における当センターの事業計画については、関係各位の御指導・御協力をいただきながら、円滑に計画した事業を実施することができました。

はじめに、調査事業においては、7遺跡の発掘調査と報告書作成のための28遺跡の整理作業を実施いたしました。発掘調査の内訳は、県農林事業に係る調査が2件、県土木事業に係る調査が3件、国土交通省事業に係る調査が2件となっており、その外12遺跡の発掘調査報告書を刊行いたしました。近年における発掘調査の傾向は、他県と同様に県公共事業の減少は引き続き見られるものの、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業が主体となっており、今後予想される高速道路の整備状況や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。また私どもの重要な施策である埋蔵文化財保護の重要性の周知や古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するとともに、引き続き県民の皆さんの目線に留意しながら、責任ある発掘調査を基礎とした調査研究を推進してまいります。

次に、研究・普及事業につきましては、センターホームページでの情報発信や現地における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さんにお知らせしてまいりました。

特に今年度は、うきたむ風土記の丘考古資料館・県立博物館・東北芸術工科大学との共同展示や、山形空港ビル、庄内空港ビルでの「外部展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業への理解や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。

また、例年山形市を会場に行っております「山形県埋蔵文化財発掘調査報告会」を『山形県埋蔵文化財センター参観デー』と衣替えし、上山市の当センターで2日間にわたって開催し、今年度発掘した調査成果の発表や、センターの業務内容の紹介、土器作り、整理作業などの体験を実施いたしました。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は45校で実施したほか、職員を派遣しての講演や調査研究発表等を実施してまいりました。今後も次世代を担う子供達を中心に、地域の伝統文化の大切さや、誇りと自信の持てる地域づくりの一環としての事業の展開など、さまざまな機会を活用して、研究・普及活動を行っていく計画です。

さらに、外部監査を通して当センターの事業運営の各分野にわたって指摘を受けた点については、改革プロジェクトチームを中心に、「コスト意識の徹底」「効率的な事務処理体制の確保」「情報の共有化」「PDCAサイクルの実践」「収益的な事業を確保するための検討」の5つの柱をもとに改善すべきところは早急に改め、県民の方々から信頼される埋蔵文化財センターとして確立してまいります。今後とも、センター運営の基本原則である、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていくため、職員一同、一層の研鑽を重ねていく所存であります。

平成21年3月31日

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 山口 常 夫

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	1
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	1
(2) 職制及び人員	2
(3) 組 織	2
(4) 職 員	3
3. 施 設	4

II. 事業概要

1. 調査業務	5
(1) 調査遺跡一覧	6
(2) 調査遺跡の概要	
上の寺遺跡（第2次）.....	8
下大曾根遺跡	12
滝ノ沢山遺跡	16
高瀬山遺跡(HO)（第3次）.....	18
山形城三の丸跡（第4次）.....	20
山形城三の丸跡（第5次）.....	24
川前2遺跡（第4次）.....	28
2. 普及啓発業務	
(1) 研 修 等	
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	30
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣.....	30
(2) 情報処理	
①収蔵図書データベース.....	30
(3) 普及啓発	
①ホームページ	31
②山形県埋蔵文化財センター参観デー(やまがた埋文祭り2008).....	31
③外部展示	32
④学校への協力	33
⑤来所者	35
⑥職員派遣等	36
⑦調査説明会	36
⑧資料貸出	37
⑨資料掲載許可	37
⑩出版物	38
(4) 調査研究	
①同范スタンプ文を有する瓦質土器の一事例 高桑 登	39
～上の寺遺跡・小田島城跡出土資料から～	
②最上地方出土の瓦質土器について 山木 巧.....	43
～下大曾根遺跡と上野遺跡出土資料の比較～	

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大事です。

平成16年に策定された第5次山形県教育振興計画では、「いのち」、「まなび」、「かかわり」の三つがキーワードとなっています。埋蔵文化財については、広い「かかわり」の中で、社会をつくるという基本方針のもと、「感性あふれる地域文化の創造」という視点から、保護と活用にあたることとしています。

平成5年4月に、文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、山形県の出資によって「財団法人山形県埋蔵文化財センター」が設立されました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究、2. 埋蔵文化財の発掘調査、3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及の三つを基本とした各種事業を推進しております。

センターの設立から今年度の3月で15周年を迎えましたが、発掘調査の成果を基礎とした調査研究の積み重ねに加え、近年は「発掘調査報告会」や「出前授業」、「外部展示」などの文化財普及啓蒙活動についても力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	山口 常夫	山形県教育委員会教育長（平成19年3月22日就任）
専務理事	柏倉 俊夫	財団常勤役員
理事	阿子島 功	山形大学人文学部長
理事	松田 泰典	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長
理事	川崎 利夫	東北中世考古学会長
理事	佐藤 鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長
理事	大沼 幸一	財団法人山形県生涯学習文化財団専務理事
監事	齋藤 哲也	山形県出納局経理課長
監事	長谷川 潔美	山形県教育庁総務課長

評議員	佐藤 禎宏	山形考古学会副会長
評議員	長澤 正機	最上地域史研究会理事
評議員	木村 俊夫	財団法人山形県生涯学習文化財団専務理事
評議員	鈴木 啓司	社団法人山形県私立学校総連合会常務理事
評議員	高橋 久一	山形県農林水産部農村計画課農山村整備主幹
評議員	水田 雄	山形県土木部道路課長
評議員	名和 達朗	山形県教育庁文化遺産課文化財保護主幹

(2) 職制及び人員

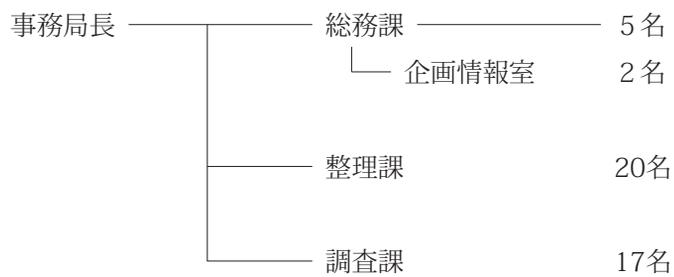
事務局長	1名
課長	3名
課長補佐	2名
専門調査研究員	3名
主任調査研究員	5名
主任	1名
主事	1名
調査研究員	12名
調査員	13名
事務員	4名
計	45名

(3) 組織

役員（理事会）

理事長（非常勤） 専務理事（常勤）

職員（事務局）



(4) 職 員

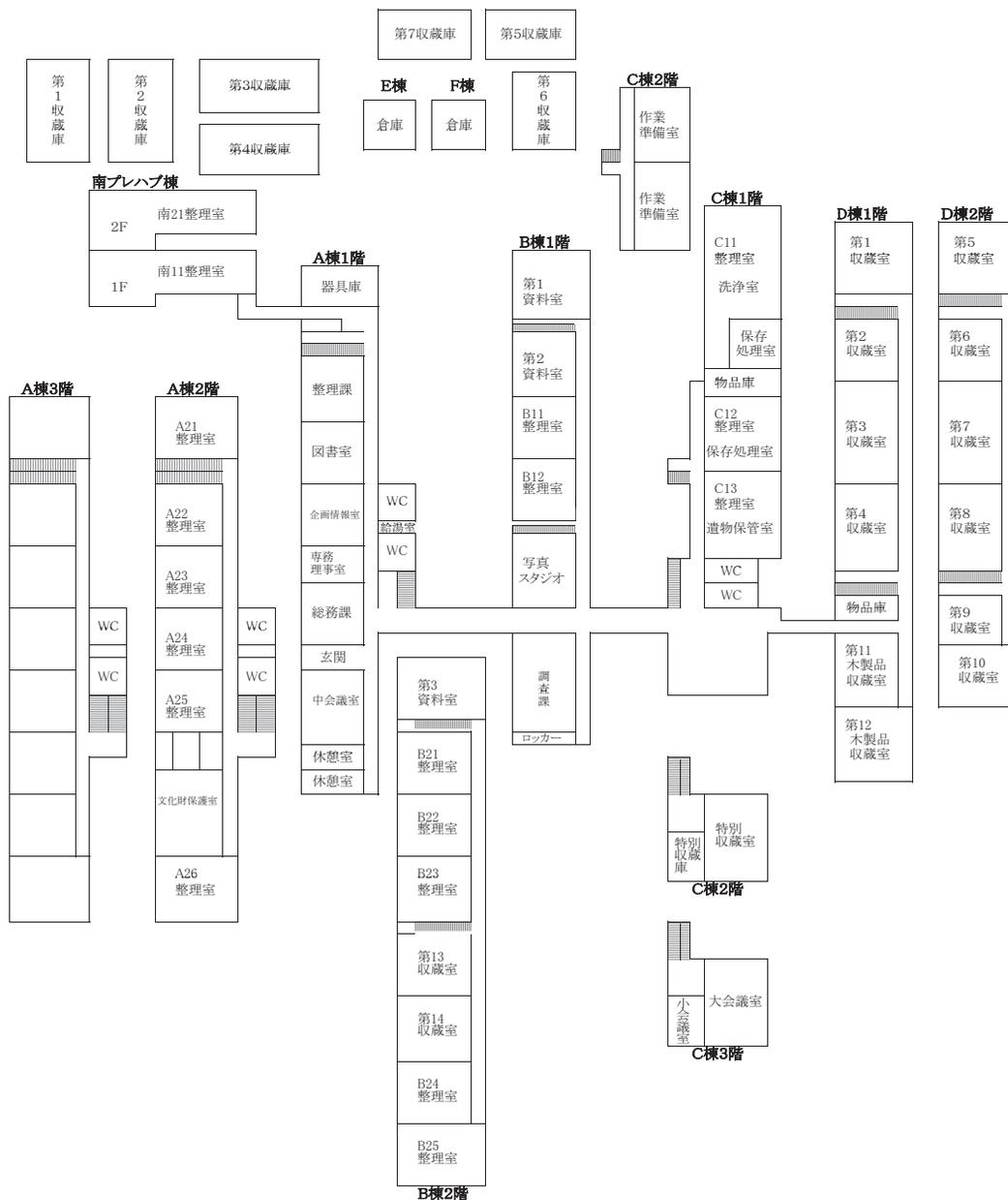
課 名	職 名	氏 名	所 属
総 務 課	事務局長	小笠原正道	県行政職派遣
	課 長	佐東 秀行	県行政職派遣
	主 任	原田 英明	財団職員
	事務員	山口 重子	
	事務員	井上 紀子	
	事務員	加藤 郁恵	
企画情報室	調査研究員	佐々木 茂	県教育職派遣
	事務員	星 とき子	
整 理 課	課 長	安部 実	県行政職派遣
	課長補佐	黒坂 雅人	財団職員
	専門調査研究員	齊藤 主税	財団職員
	主任調査研究員	氏家 信行	財団職員
	主任調査研究員	鈴木 良仁	県教育職派遣
	主任調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	主 事	浅野 ちよ	財団職員
	調査研究員	高橋 一彦	県教育職派遣
	調査研究員	高桑 弘美	財団職員
	調査研究員	齋藤 健	財団職員
	調査研究員	武田 伸一	県教育職派遣
	調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	調査研究員	三浦 勝美	県教育職派遣
	調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	調査員	黒坂 広美	
	調査員	須賀井明子	
	調査員	高木 茜	
	調査員	小林 克也	(20年7月1日退職)
	調査員	山田 渚	
調査員	五十嵐 萌		
調 査 課	課 長	長橋 至	県行政職派遣
	課長補佐	伊藤 邦弘	財団職員
	専門調査研究員	槇 綾	県教育職派遣
	専門調査研究員	須賀井新人	財団職員
	主任調査研究員	佐竹 弘嗣	県教育職派遣
	主任調査研究員	小林 圭一	財団職員
	調査研究員	福岡 和彦	県教育職派遣
	調査研究員	高桑 登	財団職員
	調査研究員	今 正幸	県教育職派遣
	調査研究員	庄司 隆志	県教育職派遣
	調査員	吉田江美子	
	調査員	伊藤 純子	
	調査員	佐藤 祐輔	(20年7月1日退職)
	調査員	吉田 満	
	調査員	山木 巧	
	調査員	渡辺 和行	
調査員	渡部 裕司		

3. 施設

財団法人山形県埋蔵文化財センターは、山形県上市市弁天二丁目15番1号に所在する。

当所の施設は、A棟からF棟までの6棟の建物からなる。

- A 棟 鉄筋コンクリート3階建 管理棟（専務理事室、総務課、企画情報室・整理課ほか）
- B 棟 鉄骨2階建 整理・出土文化財収蔵棟
- C 棟 鉄筋コンクリート3階建 出土文化財収蔵棟
鉄骨2階建、鉄骨1階建 整理棟
- D 棟 鉄骨2階建 出土文化財収蔵棟
- E・F棟 鉄骨平屋建 器材棟（倉庫）
- プレハブ棟 2階建 整理棟
- プレハブ棟 平屋建 出土文化財収蔵棟（第1～第7）7棟



II 事業概要

1. 調査業務

平成20年度は、国土交通省および山形県農林水産部並びに土木部から委託を受け、道路建設や農地整備事業、公園整備事業などに先だつての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は7遺跡について行い、調査面積は25,090㎡になります。出土遺物は土器等236箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は21遺跡について実施し、そのうち12冊の発掘調査報告書を刊行しました。

1 ^{かみ}_{てら} 上の寺遺跡

2 ^{しも}_{おお} ^そ_ね 下大曾根遺跡

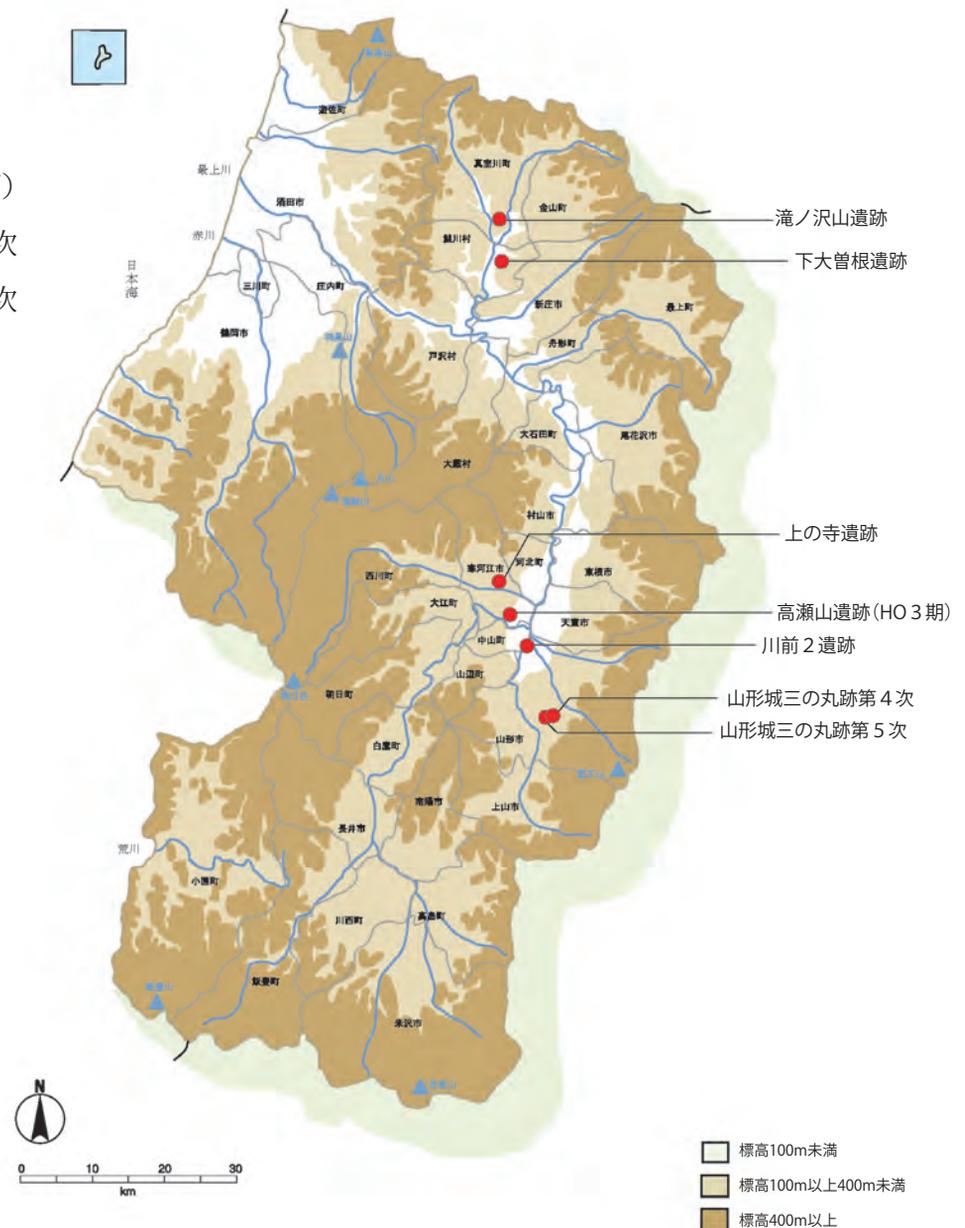
3 ^{たき}_の ^{さわ}_{やま} 滝ノ沢山遺跡

4 ^{たか}_せ ^{やま} 高瀬山遺跡 (HO 3期)

5 山形城三の丸跡第4次

6 山形城三の丸跡第5次

7 ^{かわ}_{まえ} 川前2遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	上の寺遺跡（第2次）	寒河江市	縄文、奈良・平安、中世、近世	寺院跡	4月21日～11月21日
2	下大曾根遺跡	鮭川村	奈良・平安	集落跡	5月12日～9月9日
3	滝ノ沢山遺跡	真室川町	縄文	集落跡	5月12日～7月30日
4	高瀬山遺跡（HO3期）	寒河江市	奈良・平安、中世	集落跡	5月13日～6月27日
5	山形城三の丸（第4次旅籠町）	山形市	中世、近世	城館跡	6月16日～10月31日
6	山形城三の丸（第5次春日町）	山形市	奈良・平安、中世、近世	城館跡	6月23日～11月6日
7	川前2遺跡（第4次）	山形市	古墳、奈良・平安	集落跡	5月12日～10月31日
8	亀ヶ崎城跡	酒田市	中世、近世	城館跡	平成16～19年度調査
9	天王遺跡	南陽市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	平成18・19年度調査
10	上大作裏遺跡	南陽市	縄文、弥生、奈良・平安	集落跡	平成18・19年度調査
11	檜原遺跡	南陽市	奈良・平安、中世	集落跡	平成18・19年度調査
12	百川田遺跡	南陽市	縄文、弥生、古墳、奈良・平安	集落跡	平成15～18年度調査
13	加藤屋敷遺跡	南陽市	縄文、奈良・平安	集落跡	平成18・19年度調査
14	天矢場遺跡	南陽市	縄文、中世、近世	集落跡	平成19年度調査
15	中山城跡	上山市	戦国・近世	城館跡	平成17・18年度調査
16	上ノ山館跡	上山市	戦国・近世	城館跡	平成19年度測量調査
17	下叶水遺跡	小国町	縄文、中世、近世	集落跡	平成18年度調査
18	堤屋敷遺跡	米沢市	縄文、平安、中世、近世	集落跡	平成19年度調査
19	下屋敷遺跡	米沢市	縄文、中世	集落跡	平成19年度調査
20	矢馳A遺跡	鶴岡市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	平成18・19年度調査
21	興屋川原遺跡	鶴岡市	古墳、奈良・平安	集落跡	平成17～19年度調査
22	玉作1遺跡	鶴岡市	古墳、平安	集落跡	平成18・19年度調査
23	岩崎遺跡	鶴岡市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	平成18・19年度調査
24	川内袋遺跡	鶴岡市	縄文	集落跡	平成19年度調査
25	行司免遺跡	鶴岡市	奈良・平安	集落跡(墓地)	平成18・19年度調査
26	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市	縄文、奈良・平安	集落跡・窯跡	平成17・18年度調査
27	玉作2遺跡	鶴岡市	平安	集落跡	平成17年度調査
28	南田遺跡	鶴岡市	奈良・平安	集落跡	平成18年度調査

計

調査面積 ：平方m	文化財認 定数：箱	調査の原因 〈委託者〉	業務内容			調査経費 ：千円
			発掘	整理	報告書	
8,290	24	農免道路整備事業〈山形県農林水産部〉	○	○		75,200
6,000	8	経営体育成基盤整備事業〈山形県農林水産部〉	○	○		52,820
1,500	3	一般国道344号特殊改良1種事業（山形県土木部）	○	○	○	31,685
2,000	36	最上川ふるさと公園整備事業（山形県土木部）	○	○		19,014
1,700	29	国道112号霞城改良事業〈国土交通省〉	○	○		47,136
1,100	35	都市計画街路（山形県土木部）	○	○		38,265
4,500	101	須川河川改修事業（下流部）〈国土交通省〉	○	○		59,989
		県立高校校舎改築（山形県教育委員会）		○	○	7,977
		一般国道113号赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○		29,082
		一般国道113号線赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○	○	13,992
		一般国道113号赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○		8,241
		一般国道113号赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○		32,001
		一般国道113号赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○	○	36,249
		一般国道13号上山バイパス改築事業〈国土交通省〉		○	○	5,433
		一般国道13号上山バイパス改築事業〈国土交通省〉		○	○	12,405
		一般国道13号上山バイパス改築事業〈国土交通省〉		○	○	1,791
		横川ダム建設事業〈国土交通省〉		○	○	44,700
		東北中央自動車道米沢IC付帯工事〈国土交通省〉		○		34,848
		東北中央自動車道米沢IC付帯工事〈国土交通省〉		○		
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○		55,038
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○		29,865
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○	○	3,708
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○		22,356
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○		76,371
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○		51,960
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○	○	5,661
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○	○	4,212
		日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設〈国土交通省〉		○	○	4,887
25,090	236					804,886

(2) 調査遺跡の概要

かみのてら 上の寺遺跡

遺跡番号	平成16年度新規登録
調査回数	第2次
所在地	寒河江市大字慈恩寺字上の寺
北緯・東経	38度24分37秒・140度15分21秒
調査委託者	山形県農林水産部
調査原因	農免農道整備事業（寒河江中央地区）
調査面積	8,290 m ²
現地調査	平成20年4月21日～11月21日
調査担当者	高桑登（調査主任）・須賀井新人・佐竹弘嗣・渡辺和行・渡部裕司
調査協力	寒河江市教育委員会・寒河江市農林課・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡・寺院跡
時代	縄文時代・奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構	掘立柱建物・井戸・溝・土坑・柱穴等
遺物	中世陶磁器・石製品・金属製品・土師器・須恵器・縄文土器・石器（文化財認定箱数：24箱）



調査の概要

上の寺遺跡は、国指定重要文化財の薬師三尊や十二神将で有名な寒河江市の慈恩寺近くに位置する。古くは薬師三尊・十二神将を納めた薬師寺があり、薬師寺は後に聞持院と称したとされる。江戸時代初めには聞持院は廃れ、薬師三尊は現在の本堂脇に移されている。現在遺跡周辺に残る地形や伝承に、その名残をとどめている。

慈恩寺は神亀元年（724）、行基の開山と伝えられ、平安時代には摂関家藤原氏や平泉藤原氏、鎌倉・室町時代には寒河江荘地頭の大江氏、戦国時代から江戸時代の初めには最上氏の保護を受け繁栄した。その間、永仁4

年（1296）、永正5年（1504）などには火災で伽藍の一部が焼失している。

遺跡は慈恩寺のある山の東側山腹に位置する。一帯は斜面を造成した平場が連続し、現在その平場は、サクランボなどの果樹園として利用されている。遺跡の中を、慈恩寺から箕輪集落へ続く「箕輪道」と呼ばれる道路が縦断している。

調査は現況の記録のための地形測量から実施した。測量後、重機を使用しての表土掘り下げ、人力での遺構確認・掘り下げなどの作業を実施した。重機の進入が困難な地区は人力によるトレンチ調査を行なった。

遺構と遺物

B区 遺跡の中心部である「聞持院」跡のある平場から一段下がった平場にあたる。調査区の南西に自然地形を利用した土塁があり、この土塁に沿って幅2mの溝が見つかった。溝からは陶磁器や石塔など、13世紀から16世紀末の遺物が出土している。溝の北東側から直径約1m、深さ約1mの大型の柱穴が17基検出された。柱穴は6間×7間以上の規模に並び、建物か区画施設と考えられる。柱穴のうち1基から近世磁器が出土している。

E区 4段の平場で構成され、調査区内を「箕輪道」が縦断する。箕輪道の両側及び各平場の斜面下に排水のた

めの溝が掘られる。上から3段目の平場から掘立柱建物が見つかった。建物の東角の柱穴から皇宋通寶（1038年）が出土している。この建物の他は中世の遺構、遺物は少ない。

F区 北東を矢呑沢川によって限られる。上下2段の大きな平場と、矢呑沢川に向かって下がる斜面に作られた2段の平場で構成される。中世以降の遺物はほとんど出土していない。縄文土器・石器が出土している。

G・H区 G区は矢呑沢川によって形成された谷底に位置し、小規模な平場が連続する。H区は矢呑沢川と滝ノ沢川に挟まれた尾根状に位置する。規模の大きな階段状の平場が展開している。トレンチ調査の結果から、G・H区の平場は後世の耕作による構築と判断した。

I区 「聞持院」跡の西側、尾根筋に挟まれた谷状の地形に位置する。遺構・遺物は出土していない。

J・K・L区 南東斜面上に小規模な平場が分布する。調査区に並行して箕輪道が通る。10ヶ所に試掘トレンチ

を設定した。少量の近世陶磁器が出土したが、中世にさかのぼる遺構や遺物は確認されず、一帯の平場群もG・H区と同様、後世の耕作による構築と判断した。

M区 慈恩寺本堂に最も近い調査区で、丈六仏を納めた丈六堂があったという伝承がある。17世紀初頭に構築されたと考えられる石組井戸、石敷道路が見つかった。また、M区東半部では中世前半にさかのぼる遺物がまとまって出土している。

まとめ

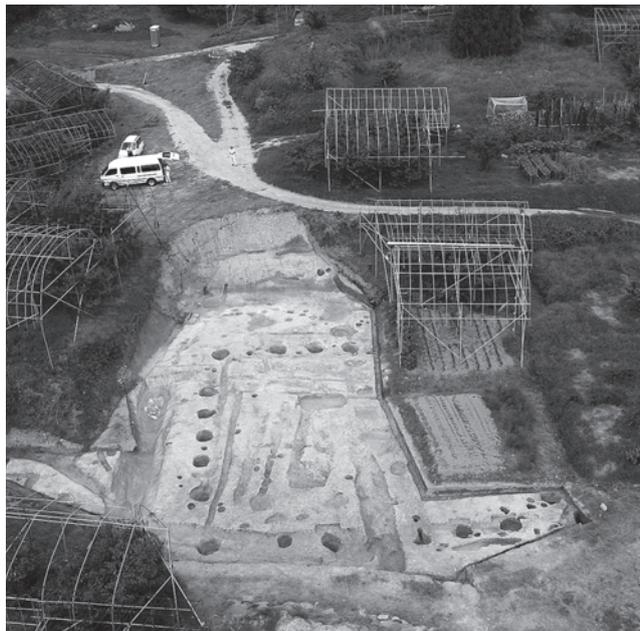
聞持院の伝承地近くのB区において、16世紀末に埋没した溝から石塔が出土していることから、戦国時代末に付近にあった寺院が廃絶した可能性がある。その一方で、現在の慈恩寺本堂に近いM区では、石組井戸など17世紀初頭に新たに構築される遺構が確認されている。中世末から近世にかけて、ある地点では寺院が廃絶し、現在の本堂周辺では新たな寺院が建立されるといった、寺院の再編成の様子が明らかになってきた。



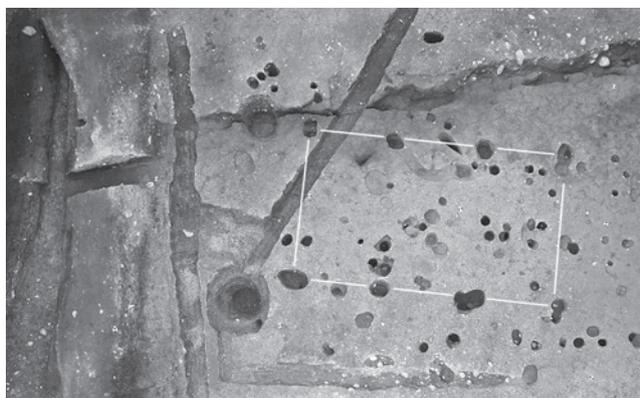
調査区全景（東から）



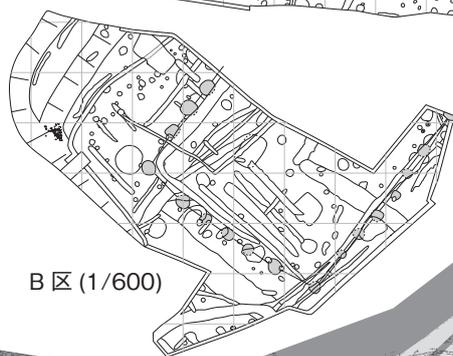
M区：石組井戸（北西から）



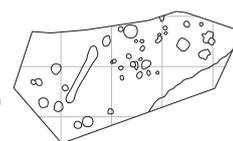
B区：大型柱穴列（南東から）



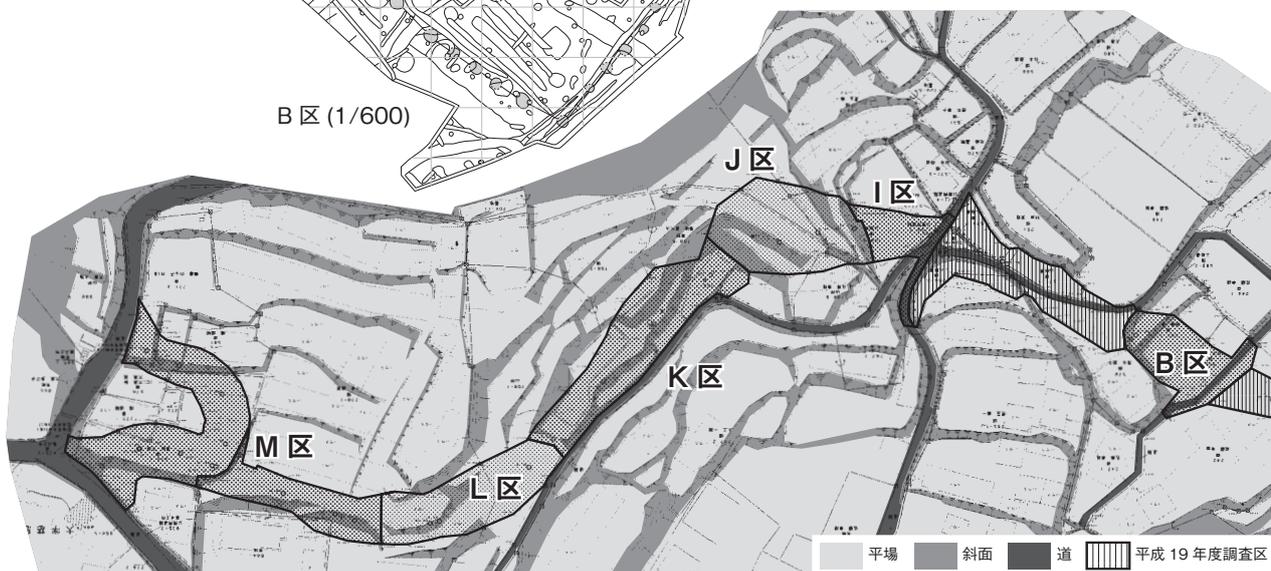
E区：箕輪道と掘立柱建物（南西から）



M区 (1/600)



B区 (1/600)





H区：トレンチ土層断面（南東から）



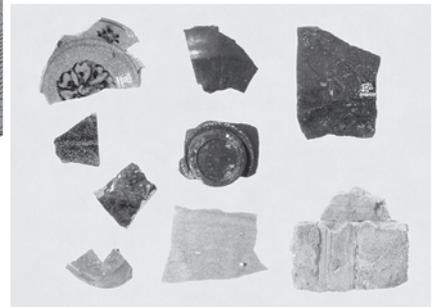
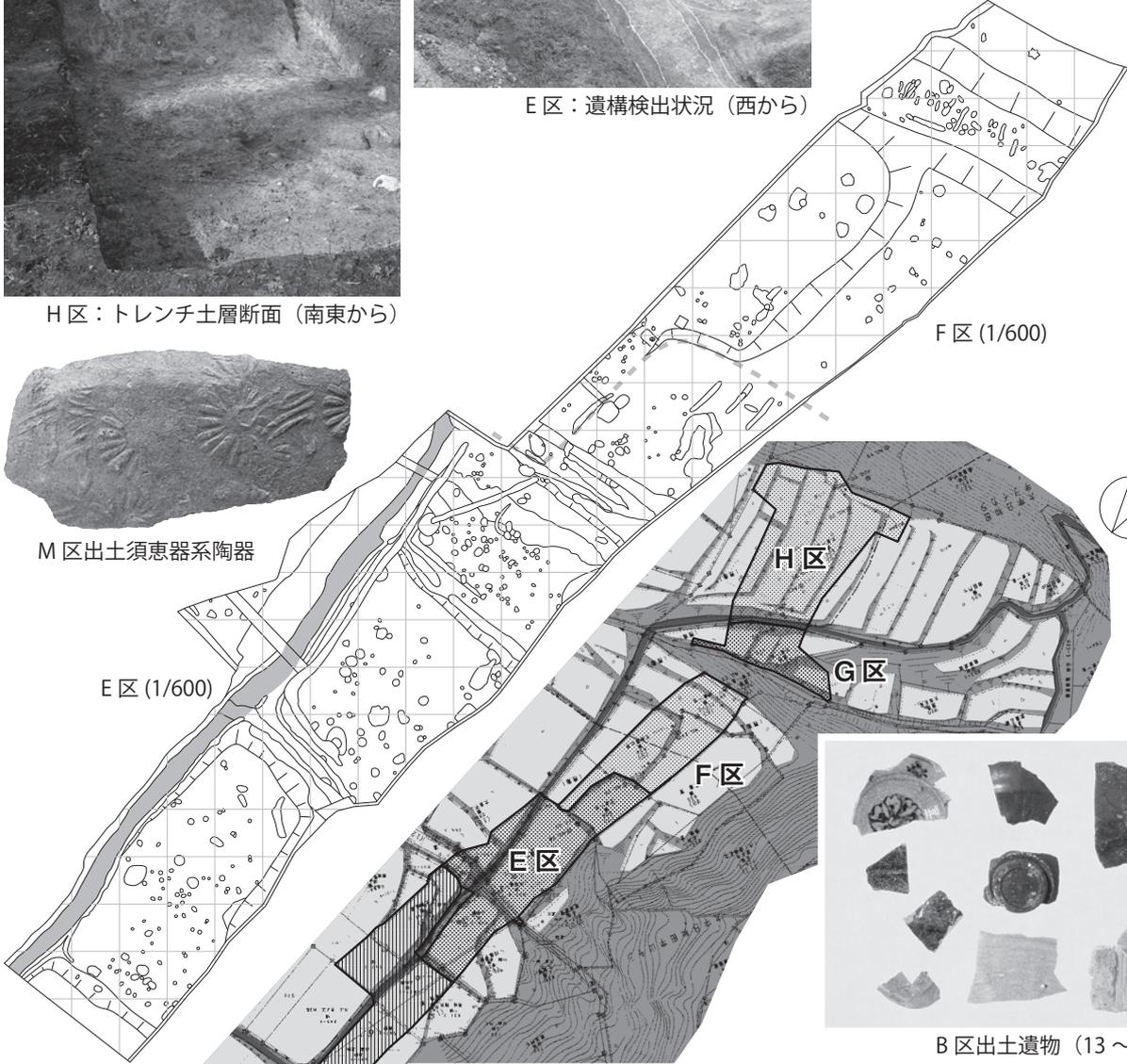
E区：遺構検出状況（西から）



G区：トレンチ土層断面（東から）



M区出土須恵器系陶器



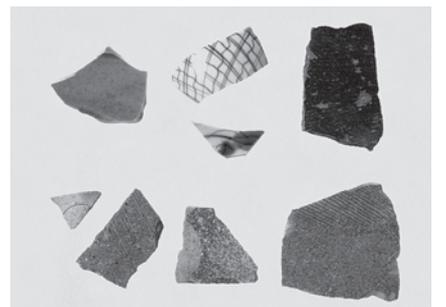
B区出土遺物（13～16世紀）



調査区概要図 (1/2,000)



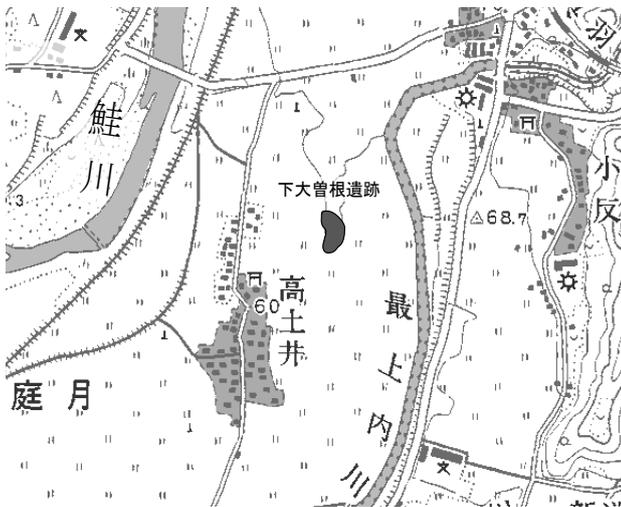
F区出土遺物（縄文時代）



M区石組井戸出土遺物（15～18世紀）

しもおおそね
下大曾根遺跡

遺跡番号 平成19年度登録
調査回数 第1次
所在地 鮭川村大字庭月字下大曾根
北緯・東経 38度49分40秒 140度14分10秒
調査委託者 最上総合支庁(産業経済部農村整備課)
調査原因 経営体育成基盤整備事業(鮭川左岸Ⅱ期)
調査面積 6,000㎡
現地調査 平成20年5月12日～9月9日
調査担当者 須賀井新人(調査主任)・水戸部秀樹・山木巧
調査協力 鮭川村教育委員会・鮭川村農村整備課・鮭川左岸地区ほ場整備推進委員会・最上教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 平安時代・中世
遺構 竪穴建物跡・井戸跡・土坑・溝跡・柱穴
遺物 須恵器・赤焼土器・中世陶磁器・木製品・石器・貨幣
(文化財認定箱数:8箱)



遺跡位置図

調査の概要

下大曾根遺跡は JR 羽前豊里駅の南西方約 600 m に位置する、平安時代と中世の集落跡である。遺跡は西側を流れる鮭川と、東側の最上内川に挟まれた微高地上に立地している。鮭川左岸に開けた段丘面に当たり、現在の地目は水田や畑地となっている。

今回の調査は県営ほ場整備事業に伴うもので、削平を受ける遺跡範囲の西側約 6,000 ㎡を対象として、5月12日から実施した。調査は事業工程との調整から南半

域を先行して進め、(前期調査区)7月下旬にこの区域の引き渡しを経た後、8月より北半部(後期調査区)について遺構精査を行った。調査区内における地盤の高さはほぼ一定ながら、遺構や遺物の分布は中央部の東寄りに多く認められた。

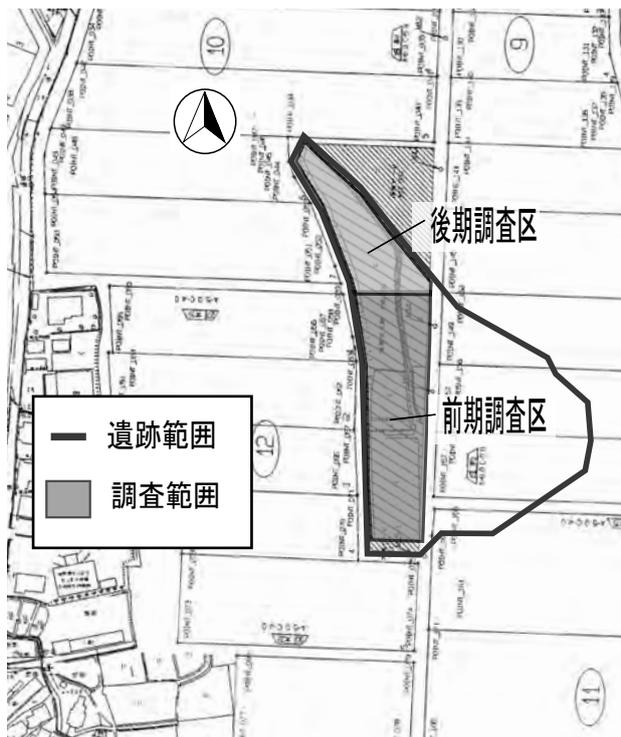
なお、平成19年7月には遺跡を南北に通る農道部分(約980㎡)について、県教育委員会が発掘調査(立会調査)を実施している。

遺構

検出された遺構には、平安時代～中世の竪穴建物跡・井戸跡・土坑・溝跡・柱穴群などがある。約400基の遺構は、出土遺物が少ないために時代が明らかなものは一部に限られるが、平安時代に属するものは、出土土器から10世紀初め頃のものと考えられる。

竪穴建物跡は6棟確認され、このうち4棟は南北方向に重複して検出された。規模は一辺約2.5mの方形で、小規模なことから住居跡ではなく、納屋や馬屋であった可能性が考えられる。

土坑は大きさ深さとも様々であるが、SK57・58・152等からは土器がまとまって出土した。また、これ



調査区概要図（1：2000）

らの土坑には、西暦915年に青森・秋田県境の十和田で噴火した際に降下したと考えられる火山灰(十和田a)が堆積していた。

柱穴は調査区全域にわたって分布している。中には等間隔で一列に並ぶものも存在したが、建物跡として組み合わせる例は認められなかった。

その他、東西・南北方向に掘られた溝跡や、大きな掘り込みで深さが2mを超えることから井戸跡と推測されるものなどがある。

遺物

遺物は平安時代の赤焼土器・須恵器・黒色土器、中世陶磁器を主として整理箱8箱分の遺物が出土した。

土器はほとんどが破片で、復元できるものは多くないが、煮炊き用の赤焼土器の甕、貯蔵用の須恵器の甕・壺、食器である赤焼土器や黒色土器の坏などが認められる。

火山灰を含んだSK58土坑等からは、ほぼ完形の赤焼土器の坏が出土している。底部が小さく器高が高い形態で、口縁部が外側に広がっており、10世紀初め頃の器の特徴が見受けられる。

中世・近世の遺物としては、碗・皿、播鉢、香炉・花瓶等の陶磁器類、古銭などが出土した。また、近隣周辺からの流れ込みと思われる北海道のいわゆる続縄文土器1点と石器剥片も数点出土している。



調査区全景（南から）

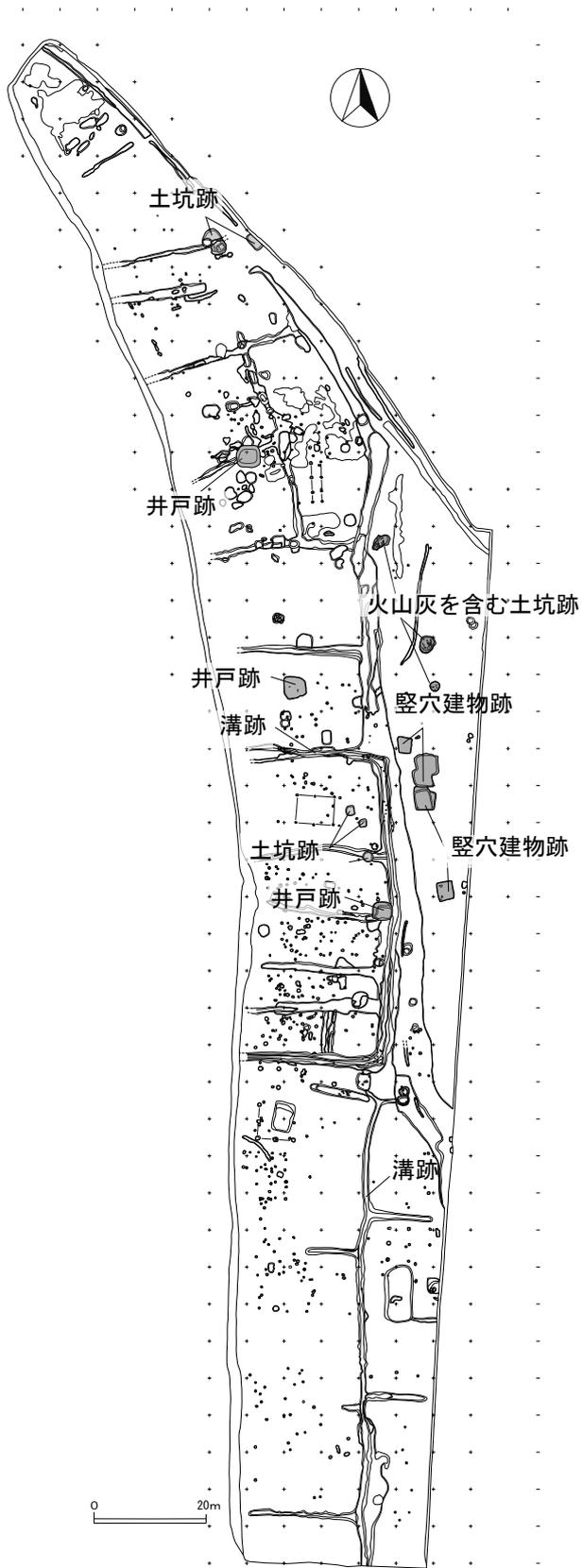
まとめ

下大曾根遺跡は、鮭川左岸に開けた河岸段丘の自然堤防上に営まれた平安時代～中世の集落跡である。周辺には縄文時代の小反遺跡や中世の上野遺跡など、鮭川流域の段丘に沿って遺跡が点在しているが、古墳～平安時代の遺跡が少ない最上地方においては、特に貴重な発見となった。これまでの調査成果をまとめると、以下のようになる。

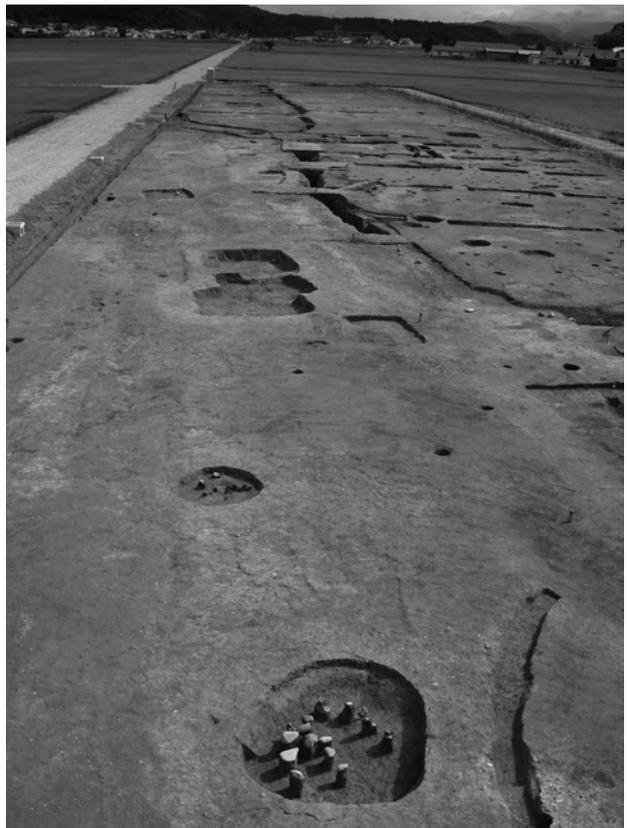
調査区における遺構の分布状況から、集落跡の主体部は東側に広がることが予測される。この遺跡範囲東半は、圃場整備において盛土工法が行われたことから、後世へ保存されることになった。

出土した遺物は整理箱8箱で、竪穴状遺構や土坑・溝跡といった主要な遺構内から多くが出土したことにより、これらの年代を推定することができる資料となった。また、火山灰が堆積した土坑から出土した土器類は、時期が明確なことから同時代の指標となり得るものである。

今回の発掘調査により、この地が古来より住みよい土地であったことが窺われる。



遺構配置図



前期調査区



竪穴建物跡調査状況



竪穴建物跡完掘状況



土層中央で帯状に堆積する火山灰 (SK58)



井戸跡 (SE108)



火山灰が堆積する土坑 (SK152)



溝跡 (SD1)



火山灰と共に出土した平安時代の遺物



続縄文土器



平安時代の出土遺物



中世の出土遺物

たきのさわやま
滝ノ沢山遺跡

遺跡番号 平成14年度登録
所在地 最上郡真室川町大字大沢字滝ノ沢山
北緯・東経 38度51分53秒・140度14分11秒
調査委託者 山形県最上総合支庁
調査原因 国道344号特殊改良一種事業
調査面積 1,500㎡
現地調査 平成20年5月12日～7月30日
調査担当者 福岡和彦（調査主任）・伊藤純子
調査協力 真室川町教育委員会、山形県教育庁最上教育事務所
遺跡種別 狩猟場跡
時代 縄文時代
遺構 陥穴・土坑・ピット群、焼土
遺物 縄文土器・石器
(文化財認定箱数：3箱)



調査の概要

滝ノ沢山遺跡は、国道344号特殊改良一種事業に先立ち、山形県教育委員会が試掘調査を行った結果、平成14年度に登録された遺跡である。

今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターは、山形県最上総合支庁から委託を受け、路線区内にかかる1,500㎡について発掘調査を実施した。

滝ノ沢山遺跡は、真室川町の南端部に位置し、JR真室川駅から北西へ約2kmの真室川町大字大沢字滝ノ沢山（通称「秋山」）に所在する。遺跡は真室川中学校の南200m、鮭川と真室川とに挟まれた高位段丘上に

立地し、周辺の地目は雑木林で、標高は134mを測る。周辺には同じ秋山地内に、縄文時代前期や中期の集落跡・散布地が3ヶ所登録されている。

遺構と遺物

検出した遺構には、陥穴、土坑、ピット群、焼土などがある。陥穴は調査区中央よりやや南側で4基検出され、大きさは約3.5m×0.4m、深さは1m前後あり、いずれも沢に向かって下っていく方向に対して垂直に掘られていた。焼土も2ヶ所で検出されたが、周辺からいくつかのピットは検出されたものの、住居跡の炉跡をなすものかどうかは確認できなかった。

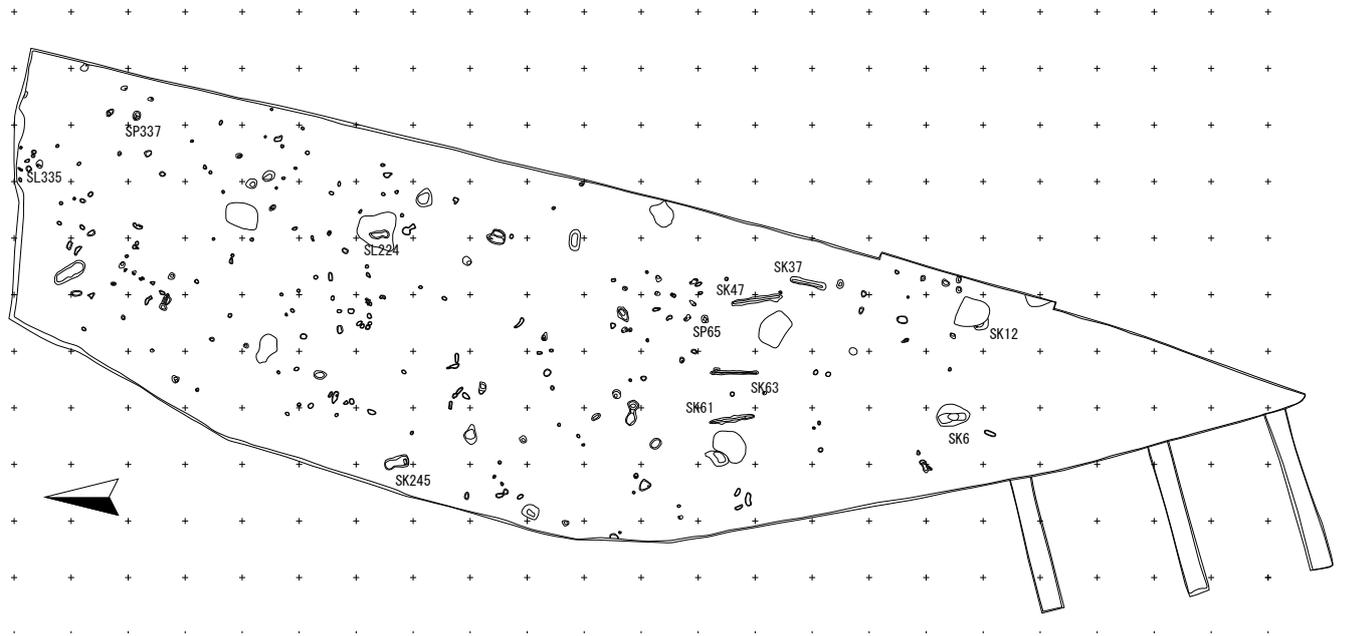
出土した遺物は整理箱にして3箱で、縄文時代の土器と石器がほとんどである。縄文土器はすべて破片だが、貝殻腹縁圧痕文が施された縄文時代早期中葉のものから、前期の大木4式期、中期の大木7b・8a式期、瘤の付いた後期後葉に位置付けられるものまでと、時期幅がある。石器では、石筥、搔器、削器、石錐などが出土している。

まとめ

今回の調査から、縄文時代の陥穴や土坑、ピット群や焼土などが確認された。検出された遺物が少ない上、遺物を伴う遺構も少なく、ほとんどの遺物は流れ込みのも

のと考えられる。流れる沢に平行な向きに4基の陥穴が掘られ、炉跡は検出されなかったものの、火を使ったと思われる焼土なども見つかった。以上により、住居跡など人々の生活した場はもう少し高台の方にあったと考え

られ、この場所は縄文時代の狩猟場か、狩猟・採集のためのキャンプサイトのな場であったのではないかと考えられる。



遺構配置図 (S = 1:600)



SK37・47・61・63 陥穴検出状況 (西から)



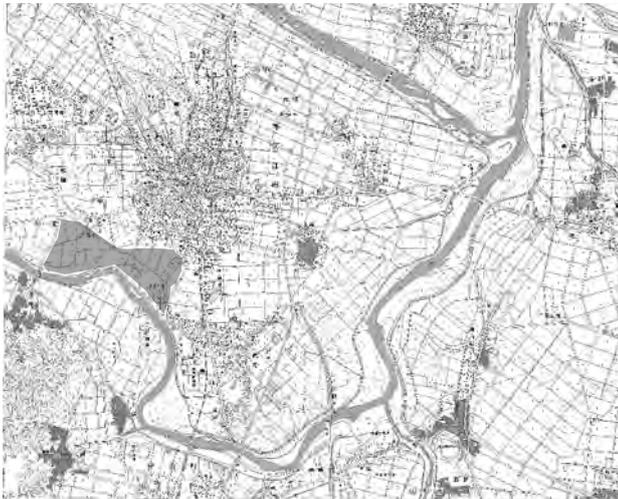
遺跡遠景 (南西から)



調査区東側拡張部分 (北西から)

たかせやま 高瀬山遺跡 (HO) 3期

遺跡番号 430
調査回数 第1次
所在地 寒河江市大字寒河江字高瀬山
北緯・東経 38度21分44秒 140度16分8秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部西村山道路計画課
調査原因 最上川ふるさと総合公園都市公園整備事業
調査面積 1,500㎡
現地調査 平成20年5月13日～6月27日
調査担当者 楨綾(調査主任)・今正幸
調査協力 寒河江市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別 集落跡・古墳
時代 縄文時代・古墳時代・古代
遺構 竪穴住居跡・溝跡・墓坑・土坑
遺物 縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器
(文化財認定箱数:36箱)



調査の概要

高瀬山遺跡は、寒河江市の南部、最上川左岸に面した高瀬山(標高122m)の周囲にある。高速道路や公園整備などにもなって発掘調査が行われてきた。この度は、平成16・17年に行われた高瀬山遺跡(HO)2期に続く、高瀬山遺跡(HO)3期発掘調査になる。調査区は、近年果樹園として利用されており、遺跡内には鉄剣が発見された県指定史跡「高瀬山古墳」がある。

発掘調査は、公園の造成にかかわって、上下水道管や地下送電線などの埋設工事で遺跡が破壊されてしまう部

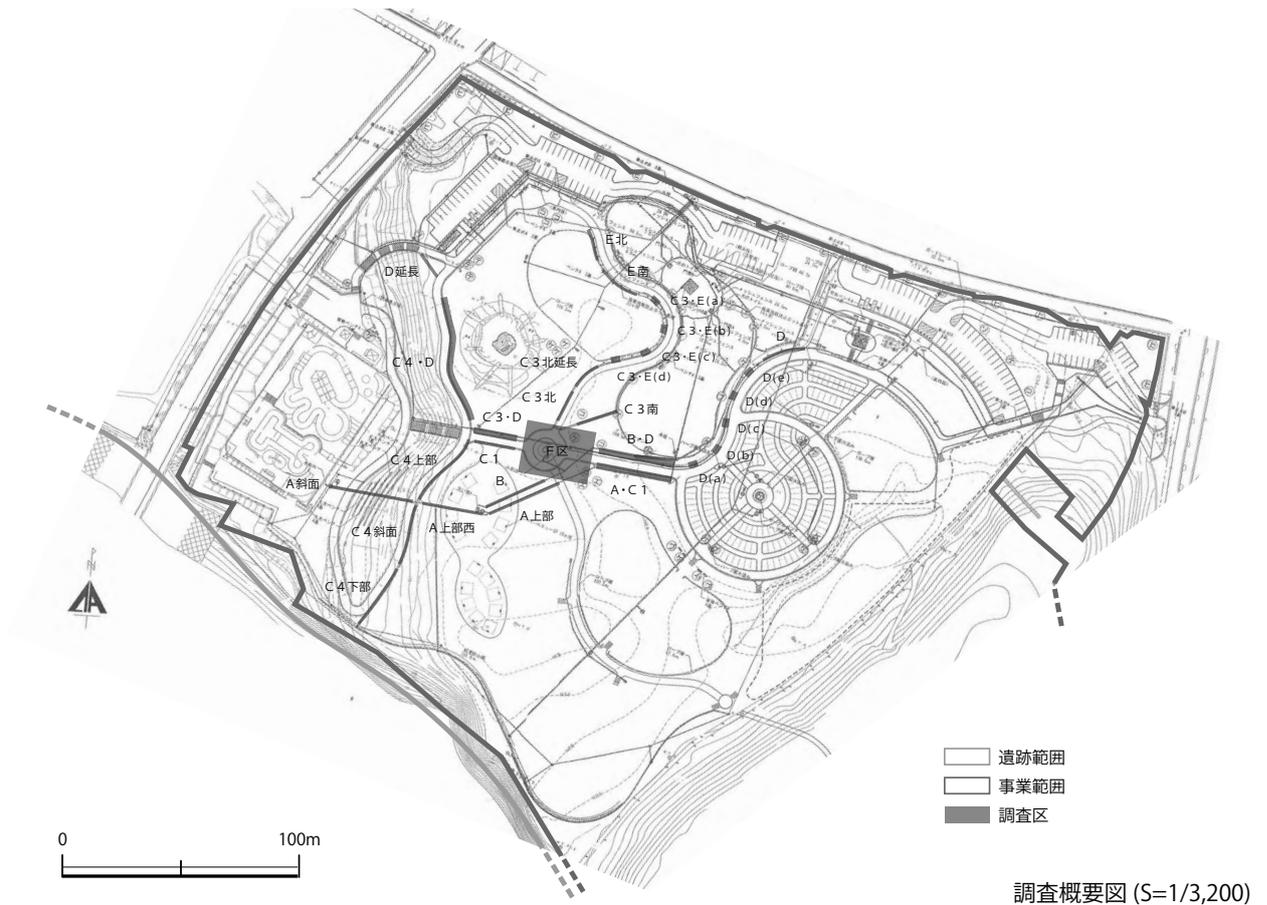
分が対象になった。幅1～2mのトレンチ(溝)調査が中心で、29の調査区がある。線(トレンチ)による発掘調査のため、面を調査する発掘とは異なり、遺跡の全容や大きな遺構の全体の姿をとらえることは困難であった。

遺物

今回の調査では、縄文時代の土器と多量の土器片、石器、石器を作製するときに発生した剥片(フレイク)、古代の土師器、須恵器、少量ではあるが近世の陶磁器が出土し、文化財登録数36箱となった。

遺構

遺構としては、段丘の下の調査区から竪穴住居跡の角部分を1棟検出した。煙道(煙突)は確認できなかったが、竈跡と考えられる焼土が見つかった。土師器の甕が出土していることから、古代(奈良・平安時代)の住居跡と考えられる。ほぼ完全な形に近い縄文時代中期(約5000～4000年前)の土器3点の土坑は、墓坑の可能性もある。その他、多数の土坑、溝跡を確認した。大きな溝跡については、隣接する高瀬山古墳に関連する周溝なのか、あるいは別の古墳の周溝であるのかなどは不明である。



調査概要図 (S=1/3,200)



奈良・平安時代の竪穴住居跡・焼土検出状況



縄文時代（中期）の埋設土器検出状況



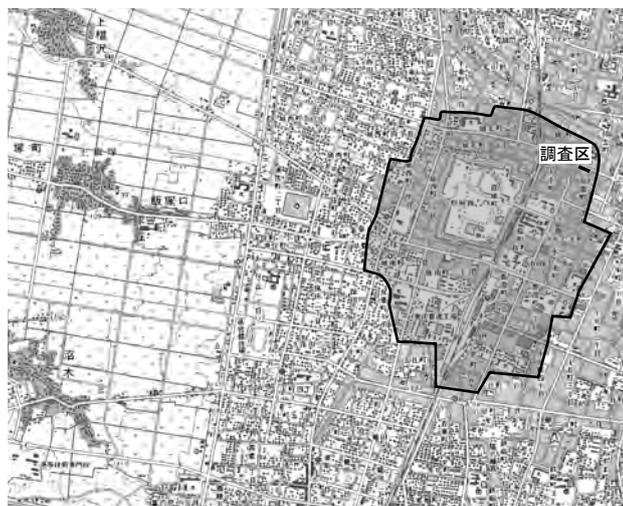
高瀬山古墳に近接する溝跡の掘下げ状況



最上川に面する段丘斜面のトレンチ調査

やまがたじょうさんのまるあと
山形城三の丸跡

遺跡番号 中世城館遺跡番号 201-002
調査次数 第4次
所在地 山形市旅籠町
北緯・東経 北緯 38 度 15 分 27 秒・東経 140 度 20 分 11 秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因 一般国道 112 号霞城改良事業
調査面積 1,700 m²
現地調査 平成 20 年 6 月 16 日～ 10 月 31 日
調査担当者 伊藤邦弘 (調査主任)・佐竹弘嗣・高木茜
調査協力 山形市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡・城館跡
時代 奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・柱穴・溝跡・土坑
遺物 須恵器・土師器・陶器・磁器・瓦・石製品・金属製品
(文化財認定箱数：29 箱)



調査の概要

山形城三の丸跡の第 4 次発掘調査は、一般国道 112 号霞城改良事業に伴う緊急発掘調査である。調査区は山形市旅籠町に位置する。

三の丸跡は、東西約 1.6 km、南北約 1.8 km に及ぶ広大な遺跡範囲を有するが、現在では、その全域が市街地化している。今回の調査区は、三の丸の北東角に近い所に位置し、南東には鍋口、北西には小橋口があったとされている。東には堀跡が想定される。

調査は、地域の皆様の生活に支障がないように調査区

を 9 ケ所に分割して行った。1 区画を約 2 週間ので終了し、埋め戻して、次の調査区に移ることを繰り返した。

遺構

今回の調査で見つかった遺構には、掘立柱建物跡・竪穴住居跡・柱穴・土坑・溝跡などがあり、9 区画での遺構総数は、約 450 基に及ぶ。また、土器、陶磁器類を主体とする遺物が 29 箱出土している。以下では、各区から見つかった遺構、遺物について概説する。

1 区では、柱穴が西側に集中して見つかると、掘立柱建物の存在が推定される。柱穴は、小振りなものが多い。炭化物を含む土坑や、一辺約 1.2m の石組の遺構も検出されている。溝跡からは、土師器の出土も見られる。

2 区でも柱穴が数多く検出されているが、建物を構成するまでには至っていない。本調査区の中央部分は、近現代の掘削が行われていることも関係するが、遺構密度は希薄である。

3 区からは掘立柱建物跡を構成すると考えられる柱穴が見つかった。全体の規模、形は不明であるが、北西方向に軸を持つ建物が、わずかに位置を変え、2 度の建て替えを行っている様子うかがえる。

4 区にも全体の規模は不明だが、3 棟の掘立柱建物跡



1区完掘状況(北西より)



6区完掘状況(北西より)



2区完掘状況(北西より)



7区完掘状況(北西より)



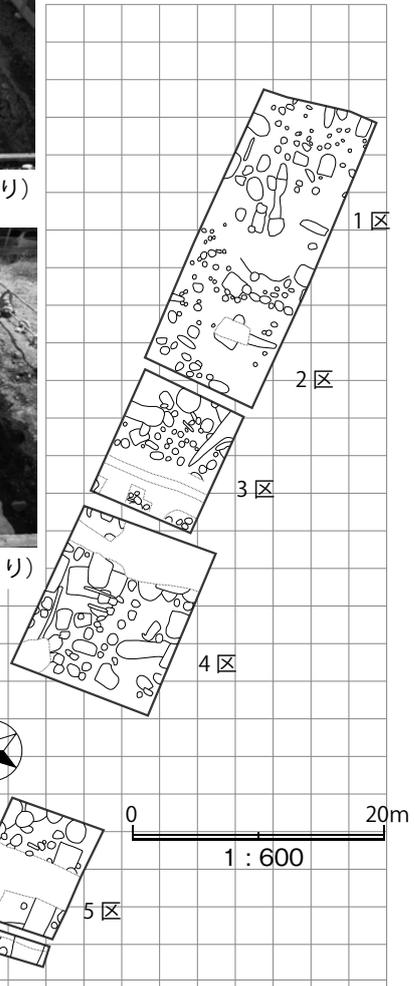
3区完掘状況(南東より)



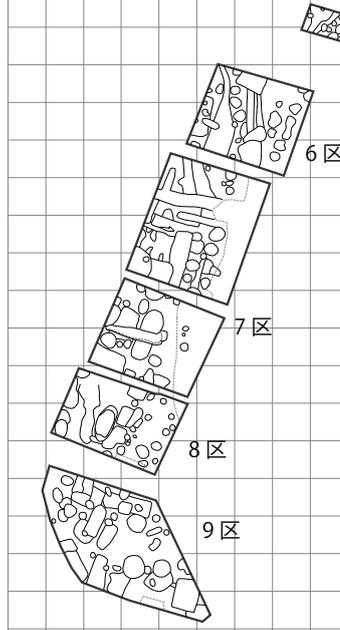
4区完掘状況(北西より)



5区完掘状況(南東より)



8区完掘状況(南東より)



9区完掘状況(東より)

遺構配置図

が想定される。3棟ともほぼ同じ場所にあり、2度の建て替えが考えられる。建物跡周辺の土坑や溝には、焼土や炭を多量に含むものが多く、火災にあった可能性も推測される。また、主軸方向や建て替えの状況など、3区で見つかった建物跡との共通性も認められ、関連もうかがえる。

5区は近現代の埋設物や攪乱が多く、遺構の遺存状況は良くない。その中で、直径1m前後の土坑や、幅約2m、深さ約1mの溝が検出された。

6区では奈良・平安時代の竪穴住居跡が2棟検出された。2棟とも調査区際での検出だったため、全景を知り得ないが、一辺約2mで貼り床がなされている。同時代と考えられる溝からも土師器・須恵器などの土器が出土しており、古代の集落が営まれた地点と考えられる。また、近世の溝と土坑からは縄文土器も出土している。

7区でも奈良・平安時代の遺構や遺物が見つかった。竪穴住居跡と考えられる遺構も見られるが、近世の遺構も含めて重複が著しく、不明な点が多い。6区から7区の東側までは古代の遺構が認められるものの、調査区西側の遺構の多くは、近世の柱穴や土坑である。西側中央部にある南北の石積み遺構には、多量の近世瓦が混入していた。

8区からは柱穴、土坑、旧河川が見つかった。長軸約3m、短軸約1.5mの楕円形の土坑には、灰や炭・焼土がレンズ状に堆積している。調査区北寄で検出した溝跡の下層からは、旧河川を確認した。

9区では、柱穴の他に方形や楕円形を呈する大型の土坑が検出された。その中には、8区で見つかった土坑と同じように、焼土や炭、灰を含むものが多く見受けられ

た。また、本区からも多くの瓦が出土しており、瓦葺の建物が想定されるのと同時に、これらの遺構や遺物から、この地区が火災にあったことも推測される。

遺物

今回の調査で出土した遺物には、縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦・石製品・金属製品・木製品・古銭など種類が豊富である。

縄文土器は、いずれも流れ込みで、近世の溝や土坑から数点出土している。晩期の深鉢と考えられる。

土師器と須恵器は1・2区からの出土も見られたが、多くは流れ込みによるものであるのに対し、6・7区では、遺構からの出土が多く見られた。土師器には、坏と甕があり、坏はケズリ調整が施された丸底のものや体部に段を有するものも認められる。また、内面を黒色処理したものの他に、黒色処理を施さないものも見られた。須恵器では、カエリを有する蓋の小片が出土している。これらの土器群は、7世紀末から8世紀初頭にかけてのものと考えられる。その他、9世紀前半から中頃の土師器や須恵器も出土している。

瓦では近世の瓦と古代の瓦が出土している。近世の瓦は、黒瓦と赤瓦が見られるが、黒瓦の数が凌駕する。種類は、平瓦、丸瓦、唐草文軒平瓦、巴文軒丸瓦、鬼瓦等が見られる。古代の瓦は2点のみ確認されたにすぎない。しかし、山形盆地において、生産地以外で古代の瓦が出土したことは、大きな意味を持つと考えられる。この瓦は、胎土、形状、焼成等の特徴から、山形市の小松原窯跡で生産されたものと共通点が見出され、9世紀前半の所産と考えられる。

陶器や磁器は、江戸時代のものが多くを占めるが、わ



1区の石組遺構



7区の柱穴

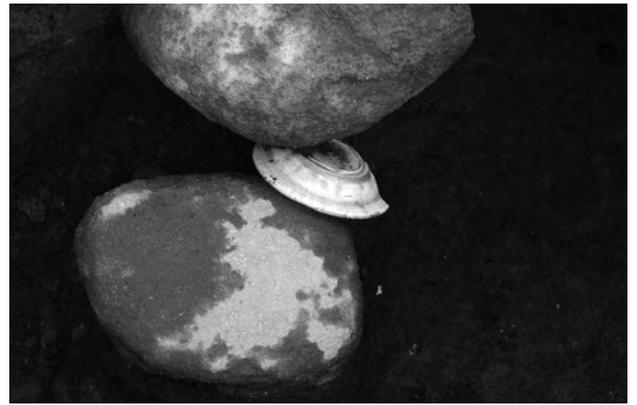
ずかに、16・17世紀代の瀬戸、唐津などの国産陶器や13世紀代と考えられる中国産の蓮弁文青磁碗も出土している。

石製品には、砥石や石鉢があり、金属製品では、釘や小刀、古銭等が見つかった。

まとめ

今回の調査では、山形城三の丸に伴う掘立柱建物跡や土坑など数多くの遺構が検出された。今後、各調査区の遺構の種類や分布状況を検証することにより、三の丸の内部構造の一端を知ることができると考えられる。

また、奈良・平安時代にさかのぼる遺構と遺物からは、当時の集落跡の存在が明らかとなった。特に平安時代の瓦の出土は、当時の役所や寺院、あるいは瓦生産と関連する興味深い資料と言える。また、7世紀代の土器は県内でも出土例が少なく、出羽建国以前の様子を知る上で貴重な発見と言える。



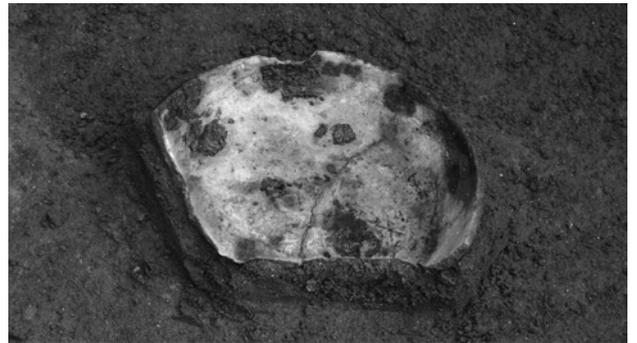
柱穴出土の陶器



土坑出土の軒丸瓦



6区の竪穴住居跡



溝出土の土師器坏



巴文軒丸瓦



平安時代の平瓦



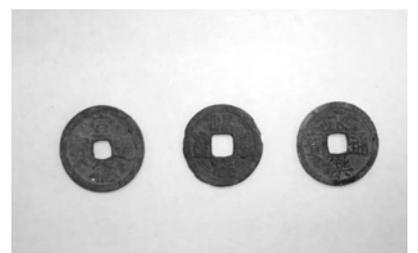
カエリのある須恵器蓋



唐草文軒平瓦



陶器 皿 (唐津・瀬戸)



古銭(宣徳通宝・熙寧元宝・永楽通宝)

やまがたじょうさん まるあと 山形城三の丸跡

遺跡番号 中世城館遺跡番号 201-002
調査回数 第5次
所在地 山形市春日町
北緯・東経 北緯38度15分11秒・東経140度19分11秒
調査委託者 山形県村山総合支庁
調査原因 都市内街路ネットワーク整備事業3・4・25号東原村木沢線（春日町）
調査面積 1,100平方メートル
現地調査 平成20年6月23日～11月6日
調査担当者 庄司隆志（調査主任）・吉田満
調査協力 山形市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 城館跡
時代 中世・近世
遺構 堀・溝跡・土坑
遺物 中近世陶磁器・瓦・木製品・石製品・金属製品・土師器・須恵器
（文化財認定箱数：35箱）



調査の概要

山形城三の丸跡は、山形城（本丸・二の丸）を取り囲む、東西約1,600m、南北約1,800mの広大な遺跡である。

平成19年8月に、県教育委員会によって春日町地内で試掘調査が行われ、山形城三の丸の土塁・堀跡、三の丸内部が確認された。これを受け、山形県村山総合支庁建設部都市計画課、県教育委員会などによって協議が進められ、（財）山形県埋蔵文化財センターが、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。

今回の調査区の東側の山形市城南町地内では、県道整

備に先立って第1～3次調査（平成14～16年度）が行われた。今年度は、その西側の延長部分にあたる春日町地内で、第5次調査として約1,100㎡を調査した。

調査区を9か所に分割しながら発掘調査を進め、6月下旬～10月上旬までに県道の南側の1～6区の調査を行い、10月上旬～11月上旬まで県道の北側の7～9区の調査を行なった。

位置と環境

調査した場所は、山形市の中心部にある霞城公園（山形城跡の本丸・二の丸、国指定史跡）から見て南西部にあたり、三の丸の11の出入口の一つである飯塚口の近くで、JR山形駅からは北西へ900mのところの位置する。今回の調査区の標高は約123.5mである。

山形城は、14世紀後半に斯波兼頼が築いたと言われ、文禄・慶長年間（1592～1615）、最上義光によって、本丸・二の丸・三の丸と三重の堀を構えた城郭・城下町が建設された。義光の時代は、飯塚口の近くに、山野辺右衛門大輔（義忠、義光の四男）が配置された。

その後、この辺りは屋敷地から田畑に変わり、明治以降も、昭和30年代ころまでは、田畑や果樹園として利用されていた。現在は、山形市の市街地中心部と市の西部を東西に連絡する県道に沿った市街地となっている。



7区完掘状況（西から）



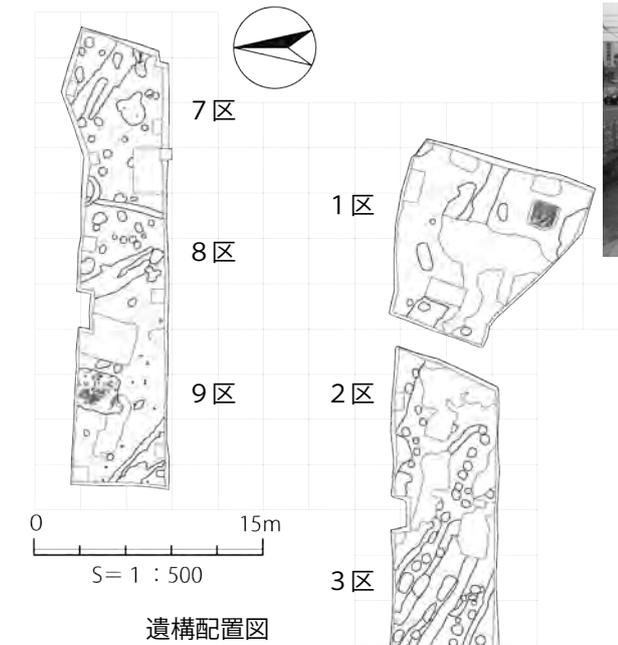
8区完掘状況（東から）



9区完掘状況（東から）



6区完掘状況（西から）



1区完掘状況（西から）



2区完掘状況（東から）



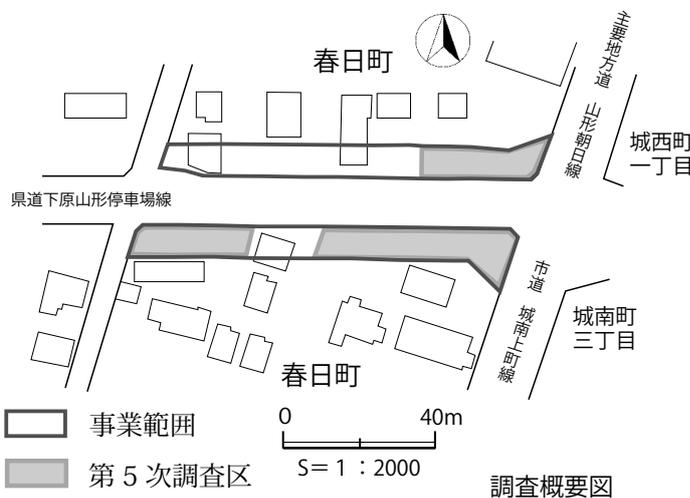
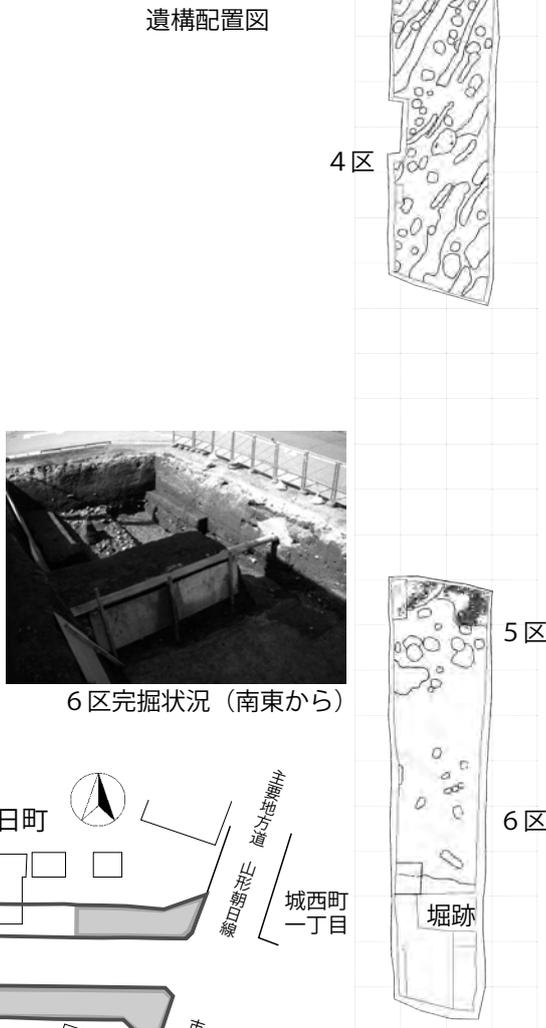
3区完掘状況（東から）



4区完掘状況（東から）



5区完掘状況（西から）



遺構

今回の調査で見つかった遺構は、堀跡、溝跡、土坑などで、調査区全体での遺構総数は、約 190 基であった。

1～4区 遺構検出面（黒粘土層より下の層）から、南東から北西方向への溝跡が見つかった。山形城は、馬見ヶ崎川の扇状地の扇中央部から扇端部に位置していることから、溝は築城以前の時代の、河川による土砂の堆積作用によって形成されたと考えられる。そのような溝跡は、7・8・9区でも見つかった。なお、1区～3区では、現代の建築物に伴う攪乱が多かった。

5区 調査区の一部で、土の堆積状況から河川と考えられる遺構に隣接して、石が集中している区域が見つかった。意図的・人工的に石を敷いて、平らに整地した跡と考えられる。その西側は堀及び土塁が存在した区域であることをふまえ、河川跡と石が集中している遺構については今後の検討を必要とする。

6区 調査区の西側で、三の丸の堀跡を確認することができた。土層の断面を見ると、堀の東側の立ち上がり部分が、はっきりとわかる。堀の最深部は現在の地表から約 2.5m、堀の幅は約 8m（現在確認できた幅）である。堀の底部は確認できたが、西側の立ち上がり部分については、今回の調査では確認できなかった。

6区東側の遺構は希薄であるものの、土層の観察から、そこは土塁の基底部分にあたるのが想定される。ただし、土塁の西端部とみられる箇所は、近現代の建築に伴う攪乱を受けていた。

堀に堆積した土は、大きく分けて3つの層に分けられ、特に、上から1層目・2層目の間から多くの自然石（華大の大きさ）が見つかった。そこからは、江戸時代後半のものとみられる陶磁器や木製品などの、多量の遺物も出土した。これらのことから、堀が掘られた後、堀の底に土や石が積み重なり、そこに当時使われていたものが廃棄されて、沈んだと考えられる。堀の堆積土の1層目を含む上の層から見つかった遺物は、明治期以降のものが多く、堀を埋めた時の土に混じっていたものと考えられる。

7区 地表から70～80cmの黒粘土層からは須恵器の蓋が出土していることから、その土層は近世以前（古代もしくは中世）のものと考えられる。

8区 調査区の東側に、人為的に掘られた溝跡を検出したが、黒粘土層の下にあることから、近世以前の時代のものと考えられる。地表から約60cm下に砂礫層（約10cm）があり、そこから多くの陶磁器片が見つかった。砂礫の層は西側（9区）にも広がっており、砂利と出土遺物の状況から、近代に整地され、そこで生活が営まれる中で生活道具が廃棄された跡と考えられる。



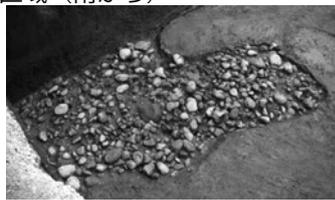
6区 堀（東側の立ち上がり部分）（南から）



6区 堀の中の2層目からの石検出状況（南西から）



5区 石集中区域（南から）



5区 石集中区域・南側（北東から）

9区 調査区の一部に石が集中している区域があった。そこからは瓦も見つかったが、出土遺物から近代の攪乱と考えられる。

遺物

今回の調査では、木製品・中近世陶磁器・瓦・金属製品・石製品・土師器・須恵器などが出土した。堀跡から木製品をはじめ多くの遺物が出土したことが特筆される。

木製品の種類は、漆器の椀、下駄、曲物、農具の柄とみられるものなどの生活道具である。中には信仰にかかわる出土品もあった。ほとんどが堀跡から出土した。

瓦は、6区の堀跡から近世のものが出土した。9区の攪乱部分からも見ついているが、その中には近世の瓦も混入している。黒瓦と赤瓦がみられ、数量は赤瓦の方が多い。平瓦、丸瓦、軒平瓦、鬼瓦などがみられる。一個体になる瓦はなかった。9区の瓦は攪乱部分から見つかったため、使用年代は不明である。

陶器や磁器は、6区の堀跡から出土したものは、多くが江戸時代のものである。種類は、茶碗、播鉢などである。また、近現代の陶磁器片が多数、8区・9区の砂礫層から見つかった。それらの中には、近代の特定の時期にしか存在しないものもあり、それらをとおして近代の

日常生活の道具の変遷をうかがい知ることができる。

金属製品では、二又の爪を持つ農具とみられる鉄製品、釘、鉛玉とみられるものが見つかった。

まとめ

今回の調査の大きな成果は、山形城三の丸跡の遺構として、堀の一部を検出・確認し、調査したことである。堀の部分の堆積土と、堀に近接して存在したとみられる土塁の基底部の基本層序を観察することができたのは、三の丸の堀及び土塁の構築を解明する上で、貴重な成果であった。また、三の丸の西側の堀跡としては、今回が初めての発掘調査という点でも意義あるものであった。

今回の調査区は山形城三の丸跡の西部の一角であるが、近世の生活面に伴う遺構は、全体的に希薄であった。このことは、近世後期以降に田畑として利用・耕作されたことによって、近世初頭（山形城築城当初の時期）の遺構が残存しにくい状況であったためと考えられる。

三の丸の堀は、近代以降には埋め立てられ、現在は、ほとんどその痕跡を残していない。今回の調査による出土品や、埋め土の状況、各調査区の遺構のあり方などの調査成果から、堀が埋められた経緯や時期、堀に近接する三の丸の様子が明らかになることが期待される。



6区 堀跡
調査状況
(南西から)



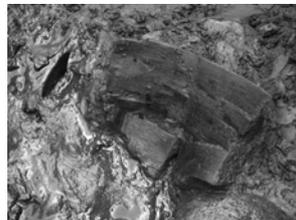
6区 堀跡
調査状況
(南西から)



漆器 (椀)



下駄



曲物



農具の柄



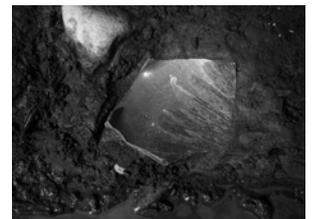
黒瓦



赤瓦



茶碗



播鉢

かわまえ 川前2遺跡

遺跡番号 平成13年度登録
調査回数 第4次
所在地 山形市大字中野目字赤坂ほか
北緯・東経 38度19分38秒・140度18分20秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因 須川河川改修下流部事業
調査面積 4,500㎡
現地調査 平成20年5月12日～10月31日
調査担当者 小林圭一（調査主任）・吉田江美子
調査協力 中山町教育委員会・山形市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代
遺構 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡
遺物 弥生土器、土師器、須恵器、砥石
(文化財認定箱数：101箱)



— 調査区

調査の概要

川前2遺跡は、山形市と中山町の二つの市町にまたがり、山形盆地の西部を北流する須川左岸の自然堤防上に位置する。古墳時代と奈良・平安時代の集落跡で、平成14・15年の調査では、奈良・平安時代の集落が検出されていたが、さらに下層（20～100cm下）から古墳時代の生活面が検出された。昨年に続いて北側が調査されたが、今回は古墳時代前期の住居跡が8棟検出された。掘り込みを伴わない土器の出土状況も随所に認められ、河川に隣接した古墳時代の集落の様相が更に明らかと

なった。

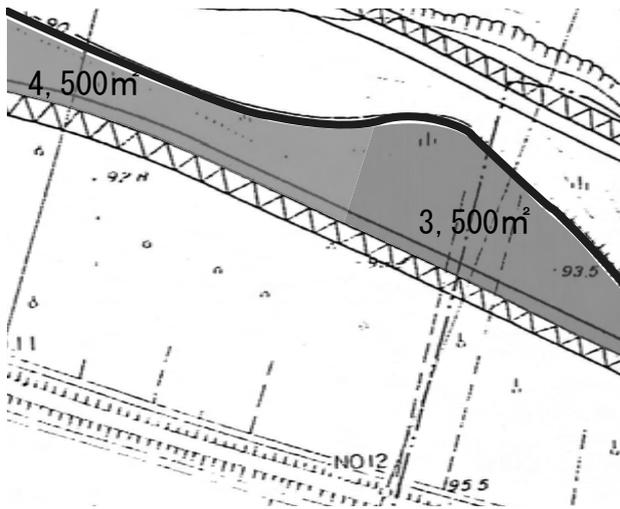
遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡32棟、掘立柱建物跡1棟、溝跡7条、土坑17基、畑跡、河川跡、掘り込みを伴わない土器集中区などである。

竪穴住居跡は、古墳時代前期8棟、奈良・平安時代15棟、時期不明9棟で、調査区中央の微高地で重複して検出された。古墳時代の住居跡は、いずれも4世紀代に構築されたもので、一辺6～8mの隅丸方形を呈し、床面が硬化しており、一部には地床炉や柱穴が確認された。奈良・平安時代の住居跡は、8世紀代に構築されたものがほとんどで、一辺4～6mの方形を呈し、カマドが構築されていたが、床面には粘土が貼られ、硬化した面が少なく、柱穴も明確でないといった特徴が認められた。住居跡はいずれも重複が著しく、冠水しにくい微高地に、集中して居住域が形成されていた様相が窺える。

土坑は17基検出されたが、時期や性格が明確でないものがほとんどである。SK19には焼土が充填されていたが、遺構検出面から弥生土器（甕）が出土した。当遺跡では、これまでの調査でも弥生時代の遺物が出土しており、同時代から営まれていた可能性が考えられる。

調査区の東南部から中央にかけての低地部からは、古



調査概要図

墳時代前期の土器（壺・甕・高坏・器台・小型壺等）が多数出土した。いずれも地面を掘り込んだ形跡が認められず、特定の場所から集中したり、意図的に土器を置いた状態で出土した。出土した土器のほとんどは、古墳時代前期の4世紀代に位置付けられ、調査時の所見では壺（小型壺を含む）・甕・器台・高坏が多く出土し、鉢・坏・椀は少なかった。また同じ低地部の須川寄りでは、並行した浅い溝跡が多数検出されたが、古墳時代の畑跡と考えられる。

まとめ

今回の調査では、古墳時代前期（4世紀代）と奈良・平安時代（8世紀代）の集落跡を検出した。居住施設が調査区内の微高地に集中して営まれたのに対し、畑跡や遺物集中区がやや低い場所に形成されており、居住域と畑・儀礼等の場所が、ある程度区別されていたことが明らかになった。

川前2遺跡の位置する須川下流域は、最上川との合流点が近く、白川や立谷川も合流し、水運の便に適した地域となっている。しかし増水時には洪水の危険にさらされていた地域であり、調査区内でも冠水で堆積した砂質土が、古墳時代の面を広く覆っており、その上に平安時代の集落が構築されていた。川沿いの集落であった川前2遺跡は、水運の要衝として発達したと遺跡と考えられる。古墳時代に土器を意図的に配置し、火を焚いた跡のような儀礼の場が設けられたのは、洪水を回避するための祈願や儀式が、集落の中で頻繁に執り行われた結果と考えられる。また奈良・平安時代においても、水運の要衝としての地の利が重視されていたからこそ、度重なる洪水を克服していったと想定される。



調査区全景

2. 普及啓発業務

(1) 研修等

①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 総 会

期 日 平成20年6月12日～6月13日
会 場 京都府京都市（ホテルルビノ京都堀川）
派遣職員 専務理事 柏倉俊夫

イ 役員会

期 日 平成20年5月15日～5月16日
会 場 山形県山形市（山形県郷土館「文翔館」）
派遣職員 専務理事 柏倉俊夫、事務局長 小笠原正道、総務課長 佐東秀行、
整理課長 安部実、調査課長 長橋至、主任 原田英明

期 日 平成20年12月2日～12月3日
会 場 東京都港区（ホテルフロラシオン青山）
派遣職員 専務理事 柏倉俊夫

ウ 研 修

(ア) 研修名 管理部会、調査部会合同研修会
期 日 平成20年10月9日～10月10日
会 場 神奈川県横浜市（横浜市開港記念会館）
派遣職員 専門調査研究員 齊藤主税

(イ) 研修名 全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修
期 日 平成20年12月5日～12月10日
研修地 中華人民共和国
派遣職員 調査課長 長橋至

エ ブロック活動

北海道・東北地区会議並びに同北海道・東北地区コンピュータ等研究委員会
期 日 平成20年10月16日～10月17日
会 場 福島県福島市（福島テルサ）
派遣職員 事務局長 小笠原正道、整理課長補佐 黒坂雅人、
調査課長補佐 伊藤邦弘、調査研究員 菅原哲文

②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣

ア 「保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程」

期 日 平成20年5月21日～5月29日
会 場 奈良文化財研究所
派遣職員 専門調査研究委員 須賀井新人

イ 「建築遺構調査課程」

期 日 平成20年10月21日～10月31日
会 場 奈良文化財研究所
派遣職員 専門調査研究委員 齊藤主税

(2) 情報処理

①収蔵図書データベース（File Maker Pro使用）

新収蔵図書 2,181冊のデータ入力実施

(3) 普及啓発

①ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡を紹介しました。
発掘調査速報	調査期間中、遺跡の状況を毎週更新して紹介しました。
イベント情報	調査説明会、外部展示、各種イベントの情報を提供しました。
センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物を紹介しました。
学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどを提供しました。また、出前授業の状況なども随時掲載しました。
埋文やまがた	広報誌「埋文やまがた」を紹介しています。 これまでに刊行したバックナンバーも閲覧できます。
センター概要	情報公開制度に基づき、センターの情報を提供しました。
その他、センターの紹介など、楽しめる内容としました。	

②「山形県埋蔵文化財センター参観デー（やまがた埋文祭り2008）」

例年ビッグウイングで開催していた発掘調査報告会をよそおいを新たに、「山形県埋蔵文化財センター参観デー」と名称をかえ、センターの活動や業務を見学・体験を通して紹介しました。

期 日	平成20年10月4日(土)～5日(日)
会 場	(財)山形県埋蔵文化財センター
内 容	報 告 会：平成20年度発掘調査の概要と7遺跡の報告 施設見学：整理作業見学と体験、特別収蔵室見学 体験コーナー：土器作り、勾玉作り、スタンプラリー
入 場 者	733人
関連事業	授業に役立つ考古学セミナー（教職員を対象にした研修会） 期 日：9月17日(水) 13:30～16:00 対象者：山形市中学校教育研究会社会科部会 54人 内 容：講話「大昔の人々の暮らし」、整理作業見学 縄文体験（火起こし、くるみ割り、縄文クッキー・勾玉・土器作り） 期 日：11月26日(水) 14:00～16:00 対象者：上山市教育研究会地域学習部会 19人 内 容：整理作業見学、縄文体験（火起こし・くるみ割り）



発掘調査速報会



整理作業室見学



土器作り

③外部展示

「発掘おきたま最前線の考古学～よみがる原始・古代の置賜像～」展

期 日 平成20年6月1日(日)～9月24日(水)
(休館日 毎週月曜日及び国民の祝日)
会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
内 容 近年発掘された置賜地方の縄文～奈良・平安時代の遺跡の紹介
「空沢遺跡」「石畑遺跡」「庚壇遺跡」「鶴の木遺跡」等の発掘資料展示
(縄文土器、須恵器、土師器等の展示、調査に関わる写真パネル等展示)
入 場 者 3,089名

「大ケヤキの下にねむる遺跡～小田島城跡～」展

期 日 平成20年9月6日(土)～23日(火)
会 場 山形空港2階特設ギャラリー
内 容 小田島城跡から発見された縄文時代～中近世までの出土品を紹介
(土器、須恵器、陶磁器、古銭等の展示、調査に関わる写真パネル等展示)
入 場 者 151名

「発掘された庄内の歴史～弥生・古墳時代編～米作りの始まり」展

期 日 平成20年10月22日(水)～11月4日(火)
会 場 庄内空港ビル3階多目的ギャラリー
内 容 酒田地区(生石2遺跡)と鶴岡地区(助作遺跡)の出土品を展示
(弥生土器、土師器、須恵器等の展示、調査に関わる写真パネル等展示)
入 場 者 155名

「埋もれていた米ものがたり」展

期 日 平成20年12月6日(土)～23日(火)
(休館日 毎週月曜日)
会 場 山形県立博物館第3展示室
内 容 水田や住まい、土器、道具などを通して「米どころ山形」の原点を探る
(弥生土器、木製品、木簡等の展示、調査に関わる写真パネル等展示)
ギャラリートーク(6日・13日・20日)
入 場 者 747名

「山形の1000年前～掘る+残す」展

期 日 平成21年3月2日(月)～23日(月)、4月5日(日)～5月8日(金)
(休館日 3月8日(日)・15日(日)・20日(金)・21日(土) 4・5月は日曜日及び祝日)
会 場 東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター展示室
内 容 1000年前の山形にスポットを当て、県内の特徴ある遺跡を紹介すると共に、金属製品
や木棺墓などの保存処理した出土品を展示
(土器、木棺墓等の出土品、保存処理に使用する道具、調査に関わる写真パネル等展示)

「発掘おきたま最前線の考古学～よみがる中世・近世の置賜像～」展

期 日 平成21年3月15日(日)～9月24日(木)
(休館日 毎週月曜日及び国民の祝日)
会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
内 容 近年発掘された置賜地方の中世～近世の遺跡の紹介
「米沢城跡」「飛泉寺跡遺跡」「大在家遺跡」「荒川2遺跡」等の発掘資料展示
(墨書かわらけ、陶磁器、漆器等の展示、調査に関わる写真パネル等展示)

④学校への協力

No.	派遣校・依頼者名	派遣職員名	実施日	実施内容	
1	川西町立大塚小学校 校長 中村 元	齋藤 健 星とき子	黒坂広美	2008年4月10日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 石器で野菜切り・縄文服体験
2	南陽市立宮内小学校 校長 高橋 正幸	菅原哲文 齋藤 健	三浦勝美 黒坂広美	2008年4月14日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
3	山形市立宮浦小学校 校長 廣谷 春樹	佐々木茂 齋藤 健	水戸部秀樹 星とき子	2008年4月15日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り・縄文服体験
4	米沢市立興讓小学校 校長 板垣 正明	高橋一彦 星とき子	黒坂広美	2008年4月16日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り
5	米沢市立西部小学校 校長 島津 真一	佐々木茂 齋藤 健	武田伸一 星とき子	2008年4月17日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう
6	上山市立宮生小学校 校長 柏倉 善三	佐々木茂	星とき子	2008年4月19日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 弓矢体験・勾玉作り・縄文服体験
7	河北町立北谷地小学校 校長 庄司 寛	齋藤 健 星とき子	黒坂広美	2008年4月21日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
8	鶴岡市立長沼小学校 校長 遠藤 敬	佐々木茂	齋藤 健	2008年4月22日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り
9	村山市立大倉小学校 校長 寒河江 秀壽	佐々木茂	星とき子	2008年4月23日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
10	寒河江市立醍醐小学校 校長 安孫子 一彦	齋藤 健 小林克也	黒坂広美	2008年4月24日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り
11	米沢市立南原小学校 校長 高橋 美香	鈴木良仁 星とき子	佐々木茂	2008年4月25日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 勾玉づくり
12	鮭川町立牛潜小学校 校長 小幡 昭徳	佐々木茂	須賀井明子	2008年4月28日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
13	村山市立楯岡小学校 校長 大沼 廣志	佐々木茂 齋藤 健	佐藤祐輔 星とき子	2008年4月30日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・縄文服体験・勾玉づくり
14	河北町立溝延小学校 校長 奥山 敏夫	植松暁彦 黒坂広美	佐々木茂	2008年5月1日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
15	鶴岡市立朝陽第六小学校 校長 渡会 晃	齋藤 健 吉田 満 高木 茜	黒坂広美 小林克也 星とき子	2008年5月2日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り・くるみ割り
16	東根市立東根小学校 校長 伊藤 大蔵	三浦勝美 五十嵐萌	齋藤 健 星とき子	2008年5月7日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
17	舟形町立長沢小学校 校長 渡辺 正	齋藤主税	星とき子	2008年5月8日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り・くるみ割り
18	村山市立袖崎小学校 校長 古瀬 節子	佐々木茂	庄司隆志	2008年5月9日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
19	寒河江市立白岩小学校 校長 伊藤 勉	齋藤 健	吉田満	2008年5月12日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
20	山形市立第二小学校 校長 江口 照芳	水戸部秀樹 星とき子	黒坂広美	2008年5月13日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 石器作り実演・弓矢体験・石器で野菜切り
21	大石田町立大石田小学校 校長 工藤 俊夫	高橋一彦	星とき子	2008年5月14日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 勾玉作り・縄文服体験
22	東根市立東根中部小学校 校長 大類 豊太郎	三浦勝美 黒坂広美 山田 渚	武田伸一 高木 茜	2008年5月15日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り・くるみ割り
23	酒田市立西荒瀬小学校 校長 村山 さち	佐々木茂 星とき子	庄司隆志	2008年5月16日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 縄文風クッキー作り
24	舟形町まちづくり課 (仙台市立五橋中学校) 舟形町長 奥山 知雄	齋藤主税	齋藤 健	2008年5月16日	2年 自然田舎まるごと体験 勾玉作り

No.	派遣校・依頼者名	派遣職員名	実施日	実施内容
25	村山市立富並小学校 校長 菊地 宏哉	黒坂雅人 星とき子	2008年5月19日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 縄文風クッキー作り
26	中山町立豊田小学校 校長 田中 克彦	佐々木茂 星とき子	2008年5月20日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 弓矢体験
27	寒河江市立寒河江小学校 校長 村松 洋一	氏家信行 黒坂広美 山田 渚	2008年5月22日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・くるみ割り・縄文服体験
28	米沢市立松川小学校 校長 辻 雅人	齋藤 健 高桑弘美 吉田 満	2008年5月23日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
29	山形市立みはらしの丘小学校 学年委員長 稲毛 義広	伊藤邦弘 菅原哲文 佐々木茂	2008年6月1日	6年親子行事「大昔の人々の暮らし」 土器・石器に触れてみよう・火おこし・弓矢体験・ くるみ割り・勾玉づくり・縄文服体験
30	鶴岡市立大綱小学校 校長 本間 正芳	齋藤 健 星とき子	2008年6月4日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓体験・くるみ割り
31	大石町立亀井田小学校 校長 松田 彌生子	水戸部秀樹 渡部裕司	2008年6月10日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 縄文土器作り
32	寒河江市立寒河江中部小学校 校長 草刈 和男	佐々木茂 三浦勝美 武田伸一 黒坂広美 星とき子	2008年6月11日	6年総合的な学習 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り・くるみ割り
33	寒河江市立南部小学校 校長 佐藤 藤彰	佐々木茂 高橋一彦 須賀井明子 星とき子	2008年6月13日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓体験
34	新庄市立新庄中学校 校長 竹田 眞一	佐々木茂 武田伸一 黒坂広美 五十嵐萌 星とき子	2008年6月18日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り・くるみ割り
35	上山市東公民館 館長 木村 正司	佐々木茂 星とき子	2008年6月19日	小2～3年生 わくわく探検隊 勾玉作り
36	寒河江市立幸生小学校 校長 佐藤 高一	鈴木良仁 黒坂広美	2008年6月20日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
37	酒田市立十坂小学校 校長 小松 恒彦	佐々木茂 黒坂広美 小林克也 星とき子	2008年6月23日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・縄文風クッキー作り
38	尾花沢市立上柳小学校 校長 大類 公男	佐々木茂 齋藤 健	2008年6月24日	6年社会科 「大昔の人々の暮らし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験
39	酒田市立東平田小学校 校長 安藤 宏和	高桑弘美 星とき子	2008年6月26日	6年社会科 城輪柵跡の見学と講話
40	白鷹町荒砥地区公民館 館長 廣瀬 健治	今 正幸 黒坂広美 星とき子	2008年8月5日	小1年～6年 勾玉作り
41	東根市立神町中学校 校長 石澤 照夫	佐々木茂 星とき子	2008年9月9日	2年 選択社会科 勾玉作り
42	みはらしの丘フェスティバル 新都心開発整備推進協議会会長	伊藤邦弘 菅原哲文 山田 渚 星とき子	2008年9月20日	土器・石器に触れてみよう 火おこし・くるみ割り
43	山形市立第一中学校 校長 海老名 陽一	黒坂広美 星とき子	2008年9月30日	1年 選択社会科 勾玉作り
44	山辺町立作谷沢小中学校 校長 西村 仁美	黒坂広美 星とき子	2008年11月2日	文化祭「ものづくり講座」 縄文風クッキーづくり
45	新庄市立八向中学校 校長 栗田 正人	佐々木茂 水戸部秀樹	2008年12月24日	1年～3年 セミナー 「大昔の人々の暮らし」



⑤来所者

a. 見学・研修等

No.	来所者	年月日	人数	内容
1	山形県立山形聾学校 小学部6年	2008年5月13日	1	施設見学
2	上山市立南小学校 6学年	2008年5月19日	125	施設見学
3	山形市立蔵王第一中学校 2学年	2008年5月27日～ 5月30日(4日間)	4	職場体験
4	山形県立上山高等養護学校 1学年	2008年6月30日～ 7月11日(10日間)	6	職場体験
5	上山市立南中学校 上山市立北中学校 2学年 上山市立宮川中学校	2008年7月2日～ 7月8日(5日間)	5	職場体験
5	真室川町議会	2008年7月8日	7	現地視察(滝ノ沢山遺跡)
6	山形市立第一中学校 1学年	2008年7月9日	34	現地見学(山形三の丸城跡)
7	真室川町立安楽城小学校 5・6学年	2008年7月10日	13	現地見学(滝ノ沢山遺跡)
8	真室川町立真室川中学校 1・2・3学年	2008年7月15日	225	現地見学(滝ノ沢山遺跡)
9	舟形町立堀内小学校 1・2学年親子行事	2008年7月31日	15	現地見学・体験活動(下大曾根遺跡)
10	寒河江市「第38回寒河江市少年少女郷土史講座受講児童	2008年8月1日	24	施設見学と体験学習(勾玉作り) 現地見学(川前2遺跡)
11	山形県立新庄神室産業高等学校 3年	2008年8月4日	1	発掘体験(下大曾根遺跡)
12	中山町「歴史体験教室」受講児童	2008年8月6日	20	現地見学(川前2遺跡) 施設見学と体験学習(勾玉作り)
13	山形市立第十小学校 6学年	2008年8月20日	2	発掘体験(山形城三の丸跡)
14	寒河江市立陵南中学校 2学年	2008年9月2日～ 9月4日(3日間)	2	職場体験
15	山形市中学校教育研究会 社会部会	2008年9月17日	54	施設見学と体験学習
16	中山町中央公民館 女性学級生	2008年10月17日	25	施設見学
17	山形県立山形養護学校	2008年10月27日～ 10月31日(5日間)	1	職場体験
18	上山市地域学習部会	2008年11月26日	19	施設見学と体験学習
19	滝ノ沢山遺跡発掘作業員	2008年12月2日	12	施設見学
20	東北芸術工科大学 1年	2008年12月12日	30	施設見学

b. 図書閲覧

No.	来所者	年月日	閲覧目的
1	東北芸術工科大学学生 河村美佳	2008年4月11日	資料調査
2	東北芸術工科大学准教授 北野博司	2008年4月11日	資料調査
3	東北芸術工科大学大学院生 和田達也	2008年5月8日, 6月12日, 10月21日	修士論文研究
4	福島県伊達市立富成小学校 大槻巖	2008年8月22日	資料調査
5	新潟f大学 高宮史絵	2008年8月29日	資料調査
6	東北芸術工科大学学生 佐藤俊	2008年10月21日	卒業論文のため
7	東北芸術工科大学学生 佐藤俊・高仰俊輔	2008年11月14日	卒業論文のため

c. 資料調査

No.	来所者	年月日	対象遺跡
1	山形大学 櫻井敬久・高橋唯	2008年4月24日	高瀬山遺跡(HO地区)
2	山形県教育庁文化遺産課 竹田純子	2008年6月4日	板橋2遺跡
3	財団法人福島県埋蔵文化振興事業団	2008年8月7日	米沢城跡 亀ヶ崎城跡
4	國學院大學伝統文化リサーチセンター 阿部昭典	2008年8月11日	空沢遺跡、立泉川遺跡
5	仙台市富沢遺跡保存館 佐藤祐輔	2008年9月4日	西沼田遺跡
6	新潟県立歴史博物館 前嶋敏	2008年10月29日	亀ヶ崎城跡
7	仙台市教育委員会文化課 荒井格	2008年10月29日	高瀬山遺跡(2期)
8	(株)パレオ・ラボ 佐々木由香	2008年11月4日	高瀬山HO遺跡、押出遺跡
9	NPO法人一関文化会議所 阿部實弘	2008年11月14日	お花山古墳群、大之越古墳
10	早稲田大学先史考古学研究所 鈴木正博	2008年11月21日	百川田遺跡
11	仙台市縄文の森広場 太田昭夫	2008年12月11日	山形西高敷地内遺跡、小反遺跡
12	(財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 山下峰司	2008年12月17日	鶴ヶ丘城跡、堤屋敷遺跡
13	札幌市観光文化局 塩澤正樹	2009年1月23日	太夫小屋1遺跡、石田遺跡、的場遺跡
14	東北大学大学院文学研究科考古学研究室 市川健夫	2009年1月26・27日	宮の前遺跡2次・3次
15	大江町教育委員会 上田美紀	2009年2月19日	亀ヶ崎城跡 米沢城跡
16	東北大学考古学研究室 芝康次郎 他2名	2009年2月24日	お仲間林遺跡 太郎水野遺跡
17	東京大学大学院人文社会研究科 根岸洋	2009年2月26・27日	生石2遺跡 砂子田遺跡 北柳1遺跡
18	秋田市環境部環境企画課 神田和彦	2009年3月23日	西谷地遺跡1次・2次・3次
19	八戸市博物館 主幹 小笠原善範	2009年3月27日	水木田遺跡 原の内A遺跡 西海淵遺跡他

⑥職員派遣等

No.	派遣職員名	依頼者名	派遣場所	年月日	内容
1	植松暁彦 齋藤健 水戸部秀樹	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年4月12日	平成20年度生涯学習施設「里仁館」開講式への派遣
2	齋藤主税	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年5月9日	里仁館教養講座 新発見、庄内の歴史を探る「6千年前の海辺の村」川内袋遺跡への派遣
3	伊藤邦弘 植松暁彦 水戸部秀樹	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館 館長 佐藤鎮雄	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館	2008年6月5日	平成20年度企画展第1回展示委員会への派遣
4	伊藤邦弘	中山町教育委員会 教育長 石川浩司	中山町中央公民館	2008年6月9日	中山町文化財保護審議会への派遣
5	齋藤健	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年6月13日	里仁館教養講座 新発見、庄内の歴史を探る「整然と立ち並ぶ建物群、古代の役所か」興屋川原遺跡への派遣
6	伊藤邦弘 植松暁彦	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館 館長 佐藤鎮雄	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館	2008年6月15日	平成20年度企画展第2回展示委員会への派遣
7	菅原哲文	東北芸術工科大学 学長 松本哲男	高島町押出遺跡周辺 酒田市黒森遺跡周辺ほか	2008年6月21 ～23日	米沢盆地（大谷地）および庄内平野における古環境復元のための植生調査への派遣
8	三浦勝美	山形県地域史研究協議会 会長 横山昭男	鶴岡市 出羽庄内国際村	2008年7月6日	山形県地域史研究協議会第34回総会・研究大会への派遣
9	三浦勝美	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年7月11日	里仁館教養講座 新発見、庄内の歴史を探る「古代の豪族のひつぎと村」行司免遺跡への派遣
10	伊藤邦弘 植松暁彦	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館 館長 佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土 記の丘考古資料館	2008年7月27日	平成20年度企画展第3回展示委員会への派遣
11	水戸部秀樹	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年9月5日	里仁館教養講座 堀出された庄内の宝物「最上川を下った瓦と出羽国府」城輪柵跡への派遣
12	齋藤健	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年10月3日	里仁館教養講座 堀出された庄内の宝物「庄内米の元祖？最古の米銘柄」上高田遺跡への派遣
13	佐々木茂	上市市立北中学校	上市市立北中学校	2008年10月9日	CSW体験発表会への派遣
14	植松暁彦	生涯学習施設「里仁館」 館長 植松芳平	生涯学習施設「里仁館」	2008年11月7日	里仁館教養講座 堀出された庄内の宝物「戦国時代の埋納銭」への派遣
15	伊藤邦弘	古代城柵官衙遺跡検討会 代表世話人 後藤秀一	東北歴史博物館	2008年11月28日	第35回古代城柵官衙遺跡検討会への派遣
16	高桑登	寒河江市醍醐地区公民 館連絡協議会 会長 松田富資雄	醍醐小学校	2008年11月29日	生涯学習講座への派遣
17	高桑登	（財）福島県文化振興事業団 理事長 富田孝志	福島県文化センター	2008年1月25日	シンポジウム「天地人の時代」の第2部の研究発表と発表資料作成への派遣
18	伊藤邦弘	中山町教育委員会 教育長 石川浩司	中山町中央公民館	2008年1月26日	中山町文化財保護審議会への派遣
19	水戸部秀樹	天童市西沼田遺跡公園 園長 楯 梧朗	天童市西沼田遺跡公園	2008年2月8日	企画展「天童の歴史 縄文時代Ⅰ～中期」にともなう歴史講座への派遣
20	小林圭一 伊藤邦弘 高桑登	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館 館長 佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土 記の丘考古資料館	2009年2月15日	「2008年山形の考古資料検討会」への派遣
21	高桑登	北村山地域史研究会 会長 小山義雄	東根公民館	2009年3月14日	東根城講演会への派遣

⑦調査説明会

	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	真室川町	滝ノ沢山遺跡	7月15日	集落跡	135
2	鮭川村	下大曾根遺跡	9月4日	集落跡	81
3	寒河江市	上の寺遺跡	9月6日	寺院跡	100
4	山形市	山形城三の丸（春日町）	10月2日	城館跡	40
5	山形市	山形城三の丸（旅籠町）	10月25日	城館跡	50
6	山形市	川前2遺跡（4次）	10月27日	集落跡	50

⑧資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	長井市教育委員会	企画展「奇数・偶数」 —縄文時代 数の世界への展示	2008年4月19日～ 2009年6月1日	熊ノ前遺跡、水木田遺跡、吹浦遺跡2次、吹浦遺跡3・4次、宮の前遺跡2次、宮の前遺跡3次、渡戸遺跡、市野々向原遺跡2・3次、砂子田遺跡2・3次、かっぱ遺跡出土遺物	39
2	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館	常設展への展示	2008年4月1日～ 2009年3月31日	西町田下遺跡ほかの出土遺物	45
3	山形市立第一中学校	1学年社会科の学習	2008年6月4日～ 2008年6月13日	生石2遺跡、熊ノ前遺跡の出土遺物	6
4	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館	企画展「出羽の国ができるころ」 への展示	2008年7月25日～ 2008年12月10日	梅ノ木遺跡、萩原遺跡、上敷免遺跡出土遺物	14
5	寒河江市教育委員会	「寒河江市埋蔵文化財フェア」 への展示	2008年8月15日～ 2008年8月25日	高瀬山遺跡ほか出土遺物	486
6	長井市教育委員会	テーマ展「考古速報展」への展示	2000年9月25日～ 2008年11月18日	空沢遺跡ほか出土遺物、遺跡写真パネル	33
7	山形県 朝日少年自然の家	「朝少まるごと縄文村」 参加者への閲覧	2008年9月11日～ 2008年9月16日	砂子田遺跡出土遺物	40
8	新潟県立歴史博物館	講演会「縄文のクリ 小国の クリ」への展示	2008年9月26日～ 2008年9月29日	下叶水遺跡出土遺物	4
9	仙台市富沢遺跡保存館	企画展「平野を拓いた木の道具 —農具のはじまり—」への展示	2008年10月17日～ 2008年12月7日	西沼田遺跡出土木製品	3
10	山形市立第一中学校	1学年社会科の学習	2008年11月17日～ 2008年11月24日	高瀬山遺跡（HO）2期出土遺物	27
11	天童市西沼田遺跡公園	ミニ企画展「天童の歴史 I ～中期」への展示	2009年1月8日～ 2009年2月18日	上荒谷遺跡ほか出土遺物、写真資料	41
12	福島県文化振興事業団	企画展「“天地人”の時代—ふく しまと直江兼統—」への展示	2009年1月10日～ 2009年2月10日	米沢城跡出土遺物・図版写真、亀ヶ先城跡出土遺物・図版写真	30

⑨資料掲載許可

No.	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	㈱NHKエンタープライズ	横川ダム広報交流施設内常設展示P C 検索ソフト「小国歴史たんけん」への画像素材として使用	お花山古墳、市野々遺跡、野向遺跡、下野遺跡、千野遺跡、小国城、白子沢城、大窪砦、金毘羅砦、飛泉寺跡写真	82
2	郷土出版社	図録「保存版 村山ふるさと大百科」への掲載	高瀬山遺跡（HO）、梅野木前遺跡、三条遺跡図版写真	3
3	埋蔵文化財写真技術研究会	「埋文写真研究Vol.19」への掲載	水木田遺跡出土土器集合写真	1
4	山形県立博物館	特別展図録「庄内の自然—大地と生き物の 移り変わり」への掲載	吹浦遺跡、野新田遺跡、西向遺跡、小山崎遺跡写真フィルム	10
5	㈱ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」2008年9月号への掲載	川内袋遺跡発掘調査説明会資料文書、写真、配置図	1
6	㈱新人物往来社	「開発と災害—中世都市研究14」への掲載	上の寺遺跡、堤屋敷遺跡平成19年度発掘調査報告会資料図版写真	2
7	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館	企画展図録「出羽の国ができるころ」への掲載	梅ノ木遺跡、萩原遺跡、上敷免遺跡出土遺物写真	3
8	㈱ネクストパブリッシング	「今がわかる時代がわかる日本地図2009年版」への掲載	太郎水野2遺跡調査区全景・石器写真	4
9	㈱仙台市富沢遺跡保存館	企画展「平野を拓いた木の道具—農具のはじまり—」写真掲載	西沼田遺跡出土木製品	3
10	㈱元気な事務所	KBS京都「京のいっぴん物語」の番組使用	空沢遺跡発掘現場写真・出土のクリの写真	2
11	山形県立うきたむ 風土記の丘考古資料館	図録「出羽建国期における南出羽の考古学」への掲載	西町田下遺跡出土遺構及び円面硯実測図・図版写真、一ノ坪遺跡梅ノ木遺跡遺物実測図、馳上遺跡住居跡写真、萩原遺跡出土遺物・遺物出土状況写真	11
12	窯跡研究会	古代窯業の基礎研究への掲載	山海窯跡群第2次・山楯7・8遺跡発掘調査報告書巻頭図版写真 泉森南窯跡発掘調査報告書図版写真	3
13	新潟県立歴史博物館 大阪府立弥生文化博物館	特別展「火焔土器の国-5000年前のメッセージ」への掲載	原の内A遺跡（3次）出土写真	1

⑩出版物

a. 普及・業務報告

書名	発行年月日
埋文やまがた 第41号	2008年8月31日
埋文やまがた 第42号	2009年1月31日

b. 調査説明会資料

書名	発行年月日
滝ノ沢山遺跡発掘調査説明会資料	2008年7月15日
下大曾根遺跡発掘調査説明会資料	2008年9月4日
上の寺遺跡第2次発掘調査説明会資料	2008年9月6日
山形城三の丸跡5次(春日町)発掘調査説明会資料	2008年10月2日
山形城三の丸跡4次(旅籠町)発掘調査説明会資料	2008年10月25日
川前2遺跡第4次発掘調査説明会資料	2008年10月27日

c. 調査報告書

シリーズNo.	書名	発行年月日
170	玉作1遺跡発掘調査報告書	2009年3月31日
171	玉作2遺跡発掘調査報告書	〃
172	万治ヶ沢遺跡発掘調査報告書	〃
173	南田遺跡発掘調査報告書	〃
174	天矢場遺跡発掘調査報告書	〃
175	上ノ山館跡発掘調査報告書	〃
176	上大作裏遺跡発掘調査報告書	〃
177	下叶水遺跡発掘調査報告書	〃
178	中山城跡発掘調査報告書	〃
179	加藤屋敷遺跡発掘調査報告書	〃
180	亀ヶ崎城跡発掘調査報告書	〃
181	滝ノ沢山遺跡発掘調査報告書	〃

d. 発掘調査報告会資料

資料名	発行年月日
平成20年度発掘調査速報会	2008年10月4・5日

(4) 調査研究

同范スタンプ文を有する瓦質土器の一事例

～上の寺遺跡・小田島城跡出土資料から～

はじめに

平成 19・20 年度に実施した寒河江市上の寺遺跡の発掘調査において、スタンプによる雷文が施された瓦質土器（第 2 図-1）が出土した。このスタンプ文は、東根市小田島城跡から出土した瓦質土器（山形埋文 2004）で確認された同范スタンプ文の一群（高桑 2007）と同じスタンプが使用されていた。

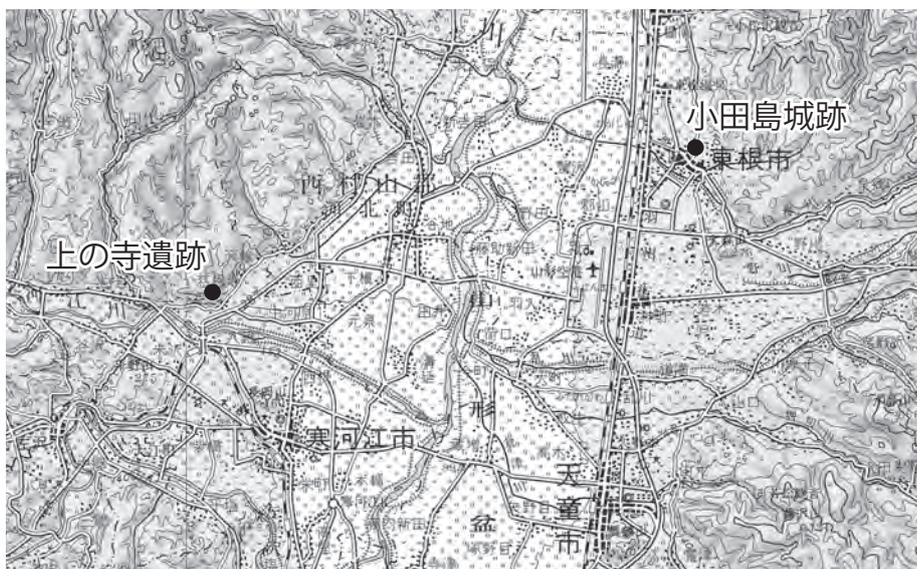
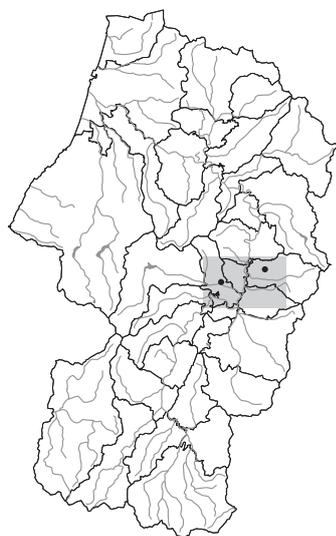
本稿では、これらの同范スタンプ文を有する瓦質土器について検証と事例紹介を行ない、その意義について若干の考察を試みる。

1 遺跡の概要

上の寺遺跡は寒河江市に所在し、国重要文化財の十二神将等で有名な慈恩寺に隣接する。現在の慈恩寺本堂が山地の南斜面に立地し、上の寺遺跡が東南斜面に立地する。一帯は斜面を造成した平場が連続して分布し、遺跡の中心には中世に十二神将や薬師三尊を納めていた薬師寺、聞持院という寺院があったとされ、土塁が現存する。

調査では 13 世紀から 17 世紀の遺構・遺物が出土している。仏具と考えられる金属製品や、板碑、五輪塔、宝篋印塔等の石塔が出土し、文献や伝承のとおり寺院が存在していた可能性が高い。

♠



第 1 図 遺跡位置図（「地球地図日本（簡易版）」Ver.1.1、国土地理院発行 20 万分の 1 地勢図「仙台」を使用して作成）

小田島城跡は東根城とも呼ばれ、正平 2 年（1347）の築城と伝えられる。寛文元年（1661）に廃城となっている。現在本丸には東根小学校が建ち、敷地内に国特別天然記念物の大ケヤキがある。二の丸、三の丸は宅地や果樹園となっているが、水路や沼、道路等は廃城当時の形状を良く残している。平成 9～13 年度に城内を南北に縦断する県道建設に伴って発掘調査が行われた。14 世紀後半から 15 世紀初頭を中心として、12 世紀から 18 世紀の遺構と遺物が検出された。

両遺跡は山形盆地の東西端に位置し、直線距離で約 13km 離れる（第 1 図）。いずれも盆地に張り出した山地、台地上に立地し、それぞれ山地、台地の南面には最上川支流である寒河江川、白水川が流れる。

2 遺物の特徴

表 1 に遺物の特徴を示した。第 2 図の 1、2 は口縁部が内側に張り出す浅鉢である。1 は張り出し部の内側までミガキ調整が施されるが、2 は上部の平坦面までミガキ調整で、口縁部内側は内面と同じナゲ調整となる。1 は体部と張り出し部がほぼ同じ厚さでシャープに作り出されるの対し、2 の張り出し部は肥厚し、内面の角は面取り状に丸みを帯びる。

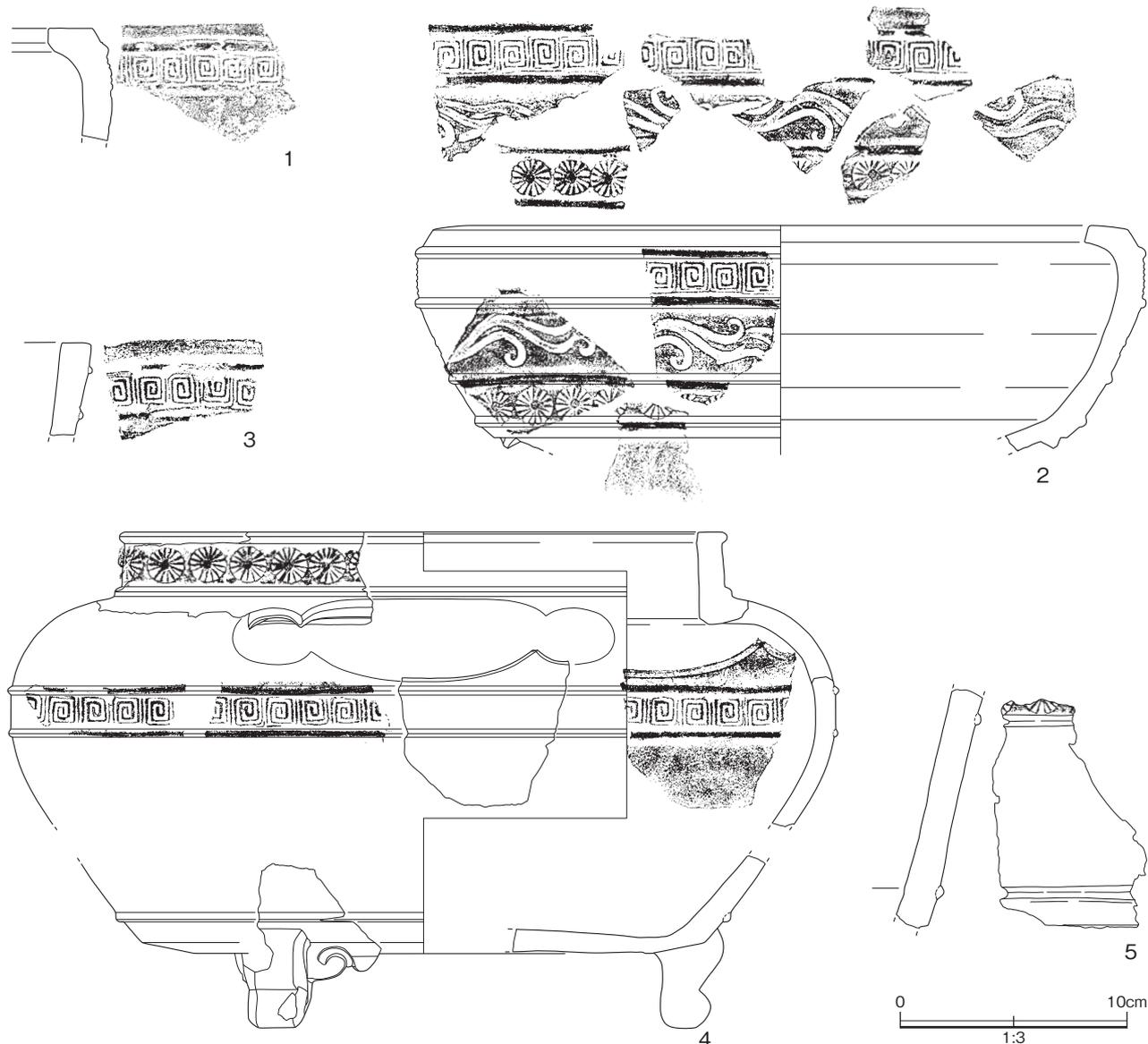
これらの特徴からは 1 が後出の印象を受けるが、2 の

体部に施される唐草文が1には認められないことから、製品の質による差異の可能性もある。

3、5は直線的な体部を持つ直口の浅鉢である。二重の突帯間に3は雷文、5は菊花文のスタンプ文が施される。3は口縁部上面までミガキ調整される。

4は垂直に立ちあがる頸部に肩の張った体部、獣脚を持つ風炉で、肩部に雲形の窓が開けられる。窓の断面は内外面ともに面取りされる（註1）。

色調はいずれも黒色を基本としているが、明らかに同一個体の破片であるにもかかわらず、燻しが十分でなく



第2図 上の寺遺跡(1)・小田島城跡(2~5) 出土瓦質土器(1:初出 2~5:山形埋文2004を一部改変)

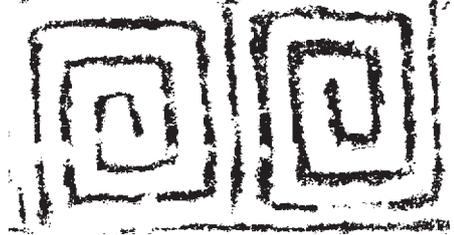
表1 遺物観察表

No.	出土位置	共伴遺物	分類*	装飾	調整・成型	胎土	備考
1	上の寺遺跡 SK0047 覆土	—	浅鉢形土器 V 類 円形浅鉢 III 類	突帯 + 雷文	外面ミガキ 内面指頭痕 + ナデ	2.5Y8/1 灰白色 (砂粒含・ 一部サンドイッチ状焼 成)	外面磨減
2	小田島城跡 SX720 石敷遺構覆土	瓷器系陶器甕 青磁蓮弁文碗・盤	浅鉢形土器 V 類 円形浅鉢 III 類	突帯 + 雷文 + 唐 草文 + 菊花文	外面ミガキ 内面ナデ 底部砂付着	2.5Y6/1 黄灰色 (砂粒含)	燻しのない褐色の 破片あり
3	小田島城跡 SD2 堀覆土	中近世陶磁器多数	深鉢形土器 IA 類 円形浅鉢 IV 類	突帯 + 雷文	外面ミガキ 内面ナデ	5Y8/1 灰白色 (雲母少量 含)	漆接ぎ
4	小田島城跡 3SX454 石敷遺構	瓷器系陶器甕 古瀬戸中 I ~ 後 II 青磁蓮弁文碗等	風炉形土器 風炉 II 類	突帯 + 雷文 + 菊 花文 窓・獣脚	外面ミガキ 内面指頭痕 + ナデ 底部付着	5Y8/1 灰白色 (砂粒少量・ 雲母少量含)	
5	小田島城跡 SD2 堀下層	中近世陶磁器多数	深鉢形土器 IA 類 円形浅鉢 IV 類	突帯 + 菊花文	外面ミガキ 内面ナデ	N7/0 灰白色 (砂粒含)	内外面部分的な燻 し

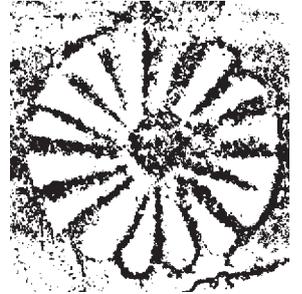
※上段佐藤分類(佐藤1996)・下段水澤分類(水澤1999)



1 雷文 (上下反転)



2 雷文



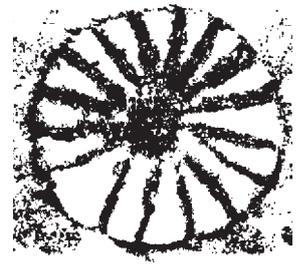
2 菊花文



3 雷文 (上下反転)



4 雷文



4 菊花文

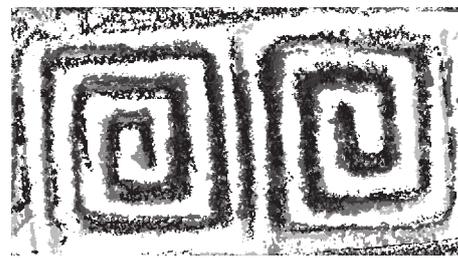


5 菊花文

第4図 スタンプ写真・拓影図



1 突帯貼り付け部

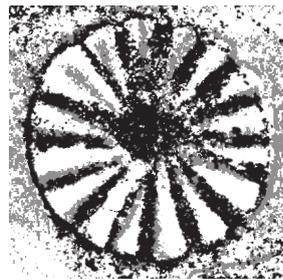


1~4

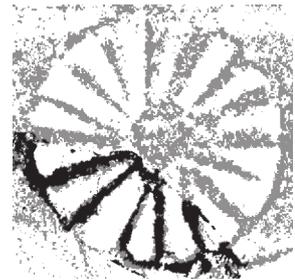


3 突帯貼り付け部

第3図 製作技法の痕跡



2・4



2・5

第5図 スタンプ拓影図合成

褐色を呈する破片があるもの(2)や、燻しによって黒色化した部分が斑状になるもの(5)等がある。

装飾は全て突帯とスタンプによって施される。棒状の工具で浅い沈線を引いた後に突帯を張り付けている。突帯の上下には棒状工具でなでつけた痕跡が認められるものが多い(第3図)。底部が遺存している2・4は、底部全面に砂が付着している。胎土は灰白色から灰色で砂粒を少量含んでいる。器面に光沢のある雲母片が確認できる。焼成は堅緻で叩くと金属音がする。

胎土や成型・装飾技法に共通点が多く、これらの遺物は同一の生産地で生産されたと考えられる。突帯の貼り付け方法や離れ砂などは大和産の瓦質土器と共通しているが、2のように複数種類のスタンプを全面に施すことや胎土の特徴など、大和産とは異なる点(註2)も多く、大和以外で生産された可能性が高い。

良好な一括資料がないため、共伴遺物から年代を推定することは難しいが、他地域の様相との比較から生産年代は、15世紀前半頃と考えられる。

3 スタンプの比較

第4図にスタンプの写真と拓影図を示した(註3)。雷文は1・2・3・4に使用されている。中心から左回りの渦2ヶ1単位で構成され、中心のコの字型の部分それぞれ上下に開く。二つの渦の間に区画する縦線が入る。それぞれのスタンプを比較すると、左右の渦中心部の形状、区画縦線の湾曲など、類似する部分が多い。

第5図にそれぞれの拓影図の濃度を変えて重ねた図を示した。スタンプ押印後の乾燥・焼成による収縮や、拓影図の紙の歪み等による誤差はあるが、大きさ、形状がほとんど一致することがわかる。

以上の点から、1から4の製品に施されたスタンプ文は、同じスタンプが用いられていると判断できる。1・3と2・4は上下が反転しており、スタンプの上下についてはあまり意識されていない。

菊花文は2・4・5に使用されている。2・4は花卉が16弁で共通する。しかし、4の左下に見られるよう

な幅の広い花卉が2では見られない。第5図の合成図を見ても、部分的には一致するものの相違点が多い。2と4は異なるスタンプが用いられていることがわかる。

5は6弁分のみ遺存しているが、2と重ねると、ほぼ一致することがわかる。部分的な比較であるため確定はできないが、2と5は同じスタンプの可能性が高い。

これらの5点の遺物について、雷文は1種類、菊花文は少なくとも2種類のスタンプが使用されていることがわかった。2と4については、雷文は同じだが、菊花文は異なるスタンプが使用されている。

4 まとめ

上の寺遺跡、小田島城跡から出土した瓦質土器について、胎土、製作・装飾技法等を比較し、使用されているスタンプの同范関係の検証を行なった。

その結果、同じ盆地内ではあるが10数km離れた2つの遺跡から、同じスタンプを用いた瓦質土器が出土していることが明らかとなった。スタンプ自体が産地間を移動した可能性もあるが、胎土等の特徴からこれらの瓦質土器は同じ産地で生産された可能性が高い。

今回の事例によって、比較的判別が容易なスタンプが、産地の同一性を判断する基準の一つとして使えることを示すことができた。

在地の瓦質土器生産の実態は不明確な点が多いが、本資料から、少なくとも山形盆地中央部を流通圏とする瓦質土器の生産体制があったことが明らかとなった。これがどの程度の範囲の流通圏を持つものか、今後、資料の増加によって明らかになってくると思われる。また、今回は肉眼観察にとどまった胎土についても、今後、理化学的な分析によって、より詳細な産地の同定が進むことが望まれる。(高桑登)

註1) 拓本の上下を一部誤って掲載していた報告書図版を修正して掲載している。

註2) 遺物の観察については、上の寺遺跡第2次発掘調査資料比較検討のために参加した第27回中世土器研究会において、参加者の方から遺物を実見していただき、多くのご教示をいただいた。

註3) 拓影図は比較しやすくするために凸部以外の汚れを除去し現寸の2倍で掲載している。

引用参考文献

- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004『小田島城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター第131集
佐藤亜聖 1996「大和における瓦質土器の展開と画期」『中近世土器の基礎研究』XI
高桑登 2007「東北の瓦質土器」『第26回中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着－瓦質土器を考える(前編)－』日本中世土器研究会
日本中世土器研究会 2008『第27回中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着－瓦質土器を考える(後編)－』
水澤幸一 1999「瓦器、その城館的なもの ー北東日本の事例からー」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第9集

最上地方出土の瓦質土器について

～下大曾根遺跡と上野遺跡出土資料の比較～

はじめに

近年の発掘調査の増加に伴い、県内でも出土例が極端に少なかった最上地方の瓦質土器の資料が新出している。最上郡鮭川村の城館跡とされる^{わの}上野遺跡と、平安時代から中世にわたる集落跡の^{しもおおそね}下大曾根遺跡の両遺跡である。この二つの遺跡は、河川をはさんで近接する位置にある。(図1)

本稿では、両遺跡から出土した瓦質土器の遺物観察や器種構成を比較し、あわせて大和産瓦質土器にみられる特徴との差異を検討したい。これらを踏まえ、瓦質土器の技術系譜や遺跡の性格について若干ながら考察を行っていく。

1 瓦質土器について

瓦質土器とは、表面に炭素を吸着させた瓦質焼成の土器で、煤けたような色調が特徴となる。また、前者と同じ器形で酸化炎焼成による土師質の製品も同類と捉えられる。

瓦質土器は、鎌倉末期の西日本を中心に出土する。器種は、壺・甕・鍋・釜・播鉢などの煮沸・貯蔵・調理具や仏具の一部に見られる傾向がある。室町期には全国的な広がりを見せるが、16世紀中頃から陶磁器類や金属器などに市場を奪われ、土師質焼成に転化させた特定の製品に器種を残すのみとなる。したがって、瓦質土器は、中世後期の代表的な生活具であるとともに、中世社会の様相を明らかにする重要な資料であると位置づけられる(鋤柄 1995)。

2 県内出土の瓦質土器

山形県内で、瓦質土器が出土する遺跡は40遺跡以上を数え、県全域に及んでいる。特に日本海に面する庄内地方と内陸部の最上川をはじめとする河川沿いで分布が知られる。県内の瓦質土器研究は、大和産と在地産の分類をはじめ、出土遺跡の分布と編年、瓦質播鉢の系譜の問題が検討されている(高桑弘 2003)。また、瓦質播鉢を含む特定の遺物群が出土する遺跡の分布状況から、

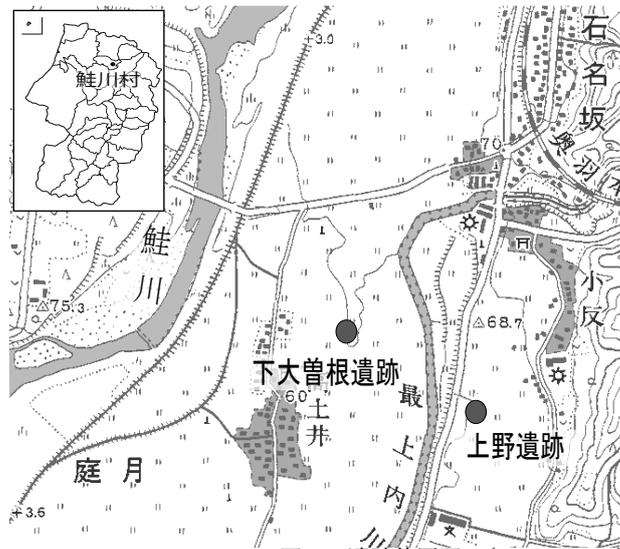


図1 遺跡位置図 (1:50,000)

領主への従属度の高い工人集団が存在するのではないかと指摘されている。(高桑登 2003)

3 遺跡の概要

下大曾根遺跡は、最上郡鮭川村大字庭月に所在し、西側を流れる鮭川と、東側の最上内川による自然堤防上に営まれた平安時代から中世の遺跡である。県営ほ場整備事業に伴い、平成21年度に発掘調査が実施された。調査の結果、竪穴建物跡をはじめ、土坑、溝跡、井戸跡が確認され、平安時代の赤焼土器や須恵器、青磁碗や白磁皿など中世の遺物も出土している。土坑や井戸跡からは、瓦質土器が6点出土している。いずれも播鉢(以後瓦質播鉢)であり、前述した瓦質焼成と土師質焼成の両方が確認されている。(図2)

上野遺跡は、下大曾根遺跡より東に約1km離れた最上内川左岸の段丘に位置する中世の城館跡で、平成14年度に発掘調査が実施されている。遺跡は、外側を小規模な堀で囲うのみで、戦時に備えた遺構は認められない。内側からは、多数の建物跡と一緒に石敷遺構や石組の池跡が確認されている。出土遺物は懸仏や鏡、硯、基石等のほかに、瓦質土器や陶磁器類がある。石組の池跡や出土遺物の様相から、庭園を有する中世の館跡であると考えられている。出土した瓦質土器は、茶湯を沸かすための風炉が主体を占め、他に播鉢が単体で出土している。(図3)

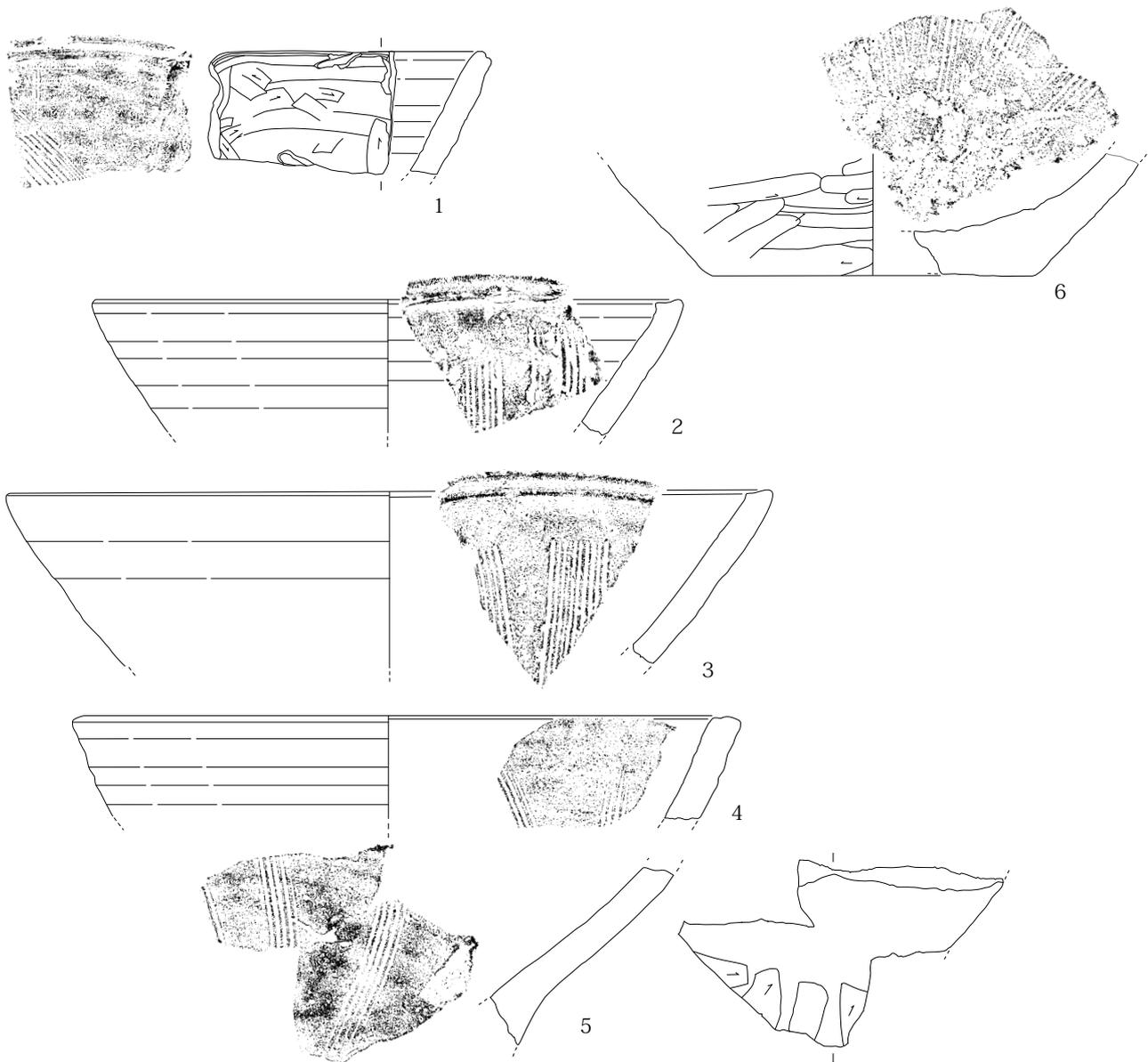


图2 下大曾根遺跡出土 瓦質播鉢

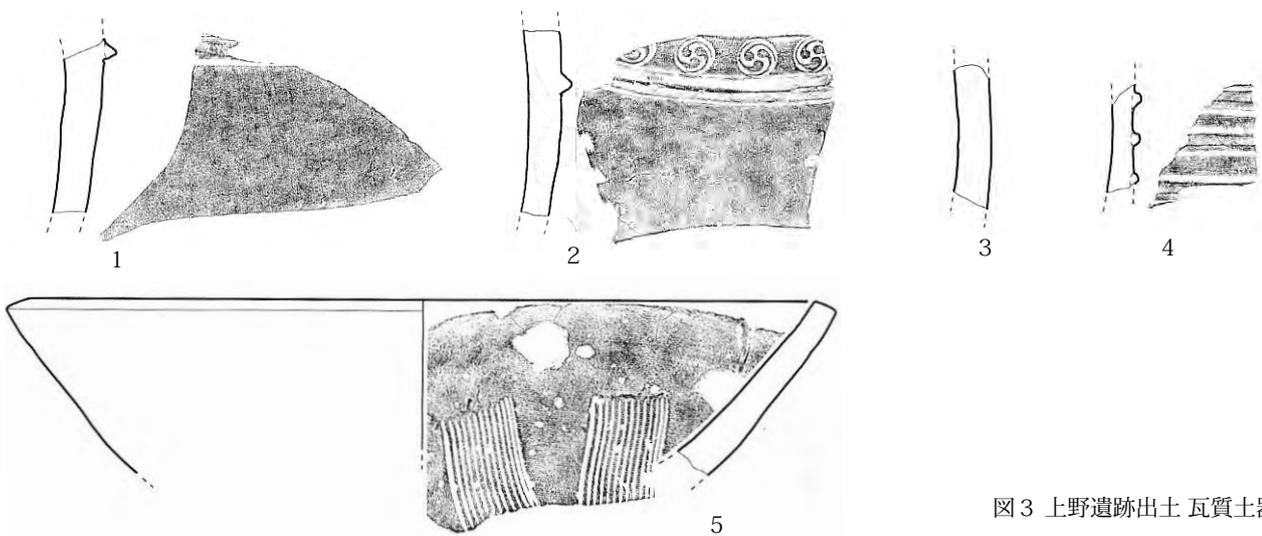
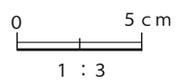


图3 上野遺跡出土 瓦質土器



No	出土地点	器種	焼成	装飾など	調整技法	燻し	胎土	備考
下大曾根遺跡								
1	SE105 F 2	播鉢	土師質	卸目20mmに8本	外面ヘラナデ	×	10YR 7/4に多い黄褐色 (石英多、雲母少、砂質)	口縁端部が方形を呈する。
2	SK134F1	播鉢	瓦質or陶質	卸目13mmに5本	ロクロ整形	×	10YR 6/4に多い黄褐色 (石英少、白色粒少)	3と同一個体。瓷器系陶器の模倣か？
3	SK134F1	播鉢	瓦質or陶質	卸目13mmに5本	外面ヘラ調整	×	10YR 6/4に多い黄褐色 (石英少、白色粒少)	2と同一個体。瓷器系陶器の模倣か？
5	SE102 RP43	播鉢	瓦質 (サンドイッチ構造)	卸目26mmに10本	ロクロ整形	内外面 (良好)	2.5Y6/1灰白色 (石英少、白色粒少)	共伴遺物に瀬戸美濃産花瓶 (瀬戸10期：1370~1400年)
6	K - 16	播鉢	瓦質 (サンドイッチ構造)	卸目26mmに10本	ロクロ整形	内外面 (良好)	2.5Y6/1灰白色 (石英少、白色粒少)	
6	SE105 F 2	播鉢	瓦質or陶質	卸目23mmに7本	底部調整不明 離れ砂不確認	全体	2.5Y2/1黒色 (石英少、黒色粒少)	瓷器系陶器の模倣か？
上野遺跡								
1	S P 13	風炉か	瓦質	外面に突帯	外面ミガキ 内面ナデ調整	(やや不良)	2.5Y6/2灰黄色 (海面骨針少量、石英少、白色粒少)	外面の突帯貼り付け良好
2	S T 129	風炉	瓦質 (一部、サンド イッチ構造)	外面に突帯 印花三巴文	外面ミガキ 内面ナデ調整	(良好)	10YR 7/2に多い黄褐色 (石英少、雲母少、海面骨針多)	外面の突帯貼り付けが雑
3	S D 11	風炉か	瓦質		外面ミガキ 内面ナデ調整	(良好)	2.5Y6/2灰黄色 (石英少、雲母少、海面骨針多)	
4	S P 41	風炉or火鉢	瓦質	外面に突帯3条	外面ナデ調整	(良好)	7.5Y7/1灰白色 (白色粒多)	外面の突帯貼り付け良好
5	S K 196	播鉢	瓦質 (サンドイッチ構造)	卸目30mmに13本	ロクロ整形	内外面 (良好)	2.5Y6/1灰白色 (石英少、白色粒多)	

表1 遺物観察表

4 遺物について

両遺跡から出土した瓦質土器の特徴を表1に示した。分類は、風炉等が破片資料で全形を把握するに至らないものがあるため、器形が把握できる播鉢に限った。瓦質播鉢の分類には、高桑弘美氏の分類を用いた(図4)。以下に、各遺物について説明する。

下大曾根遺跡出土の瓦質土器は、いずれも播鉢である(図2)。1は、片口を持つ土師質の播鉢である。口縁端部が方形となるⅢa類で、口縁端部の面には沈線が入る。外面にはヘラナデ調整が確認される。2・3は口縁部に面を持ち、内側へ低くなるⅢ類bである。瓦質焼成で内外面に燻しが施されている。4・5は、同じ遺構内から出土しており、同一の個体と思われる。燻しを施さず、色調は褐色であるが、焼成状況は良好で非常に硬質である。口縁部はⅢ類bに近似し、外面にはヘラナデ調整を施す。6は播鉢の底部である。燻しによるのか、内外面はもちろん断面も黒色を呈している。

上野遺跡から出土した瓦質土器には、風炉および播鉢の二種がある。風炉は内外面ともに燻し良好であり、外面にミガキ調整、内面をナデ調整としている。外面には、突帯の貼り付けやスタンプ文が施される。胎土は、灰白か灰黄色のチョーク質を基調とし、海面骨針を多く含むものが見受けられる。(図2 1~4)。播鉢はⅢ類aに属する。白色粒を多く含むチョーク質の胎土で、内外面とも良好な燻しが施される。(図2-5)

瓦質播鉢の年代は、各々の模倣陶器に後続する時期と考えられ、Ⅲ類aは珠洲IV期(14世紀後半)、Ⅲ類b

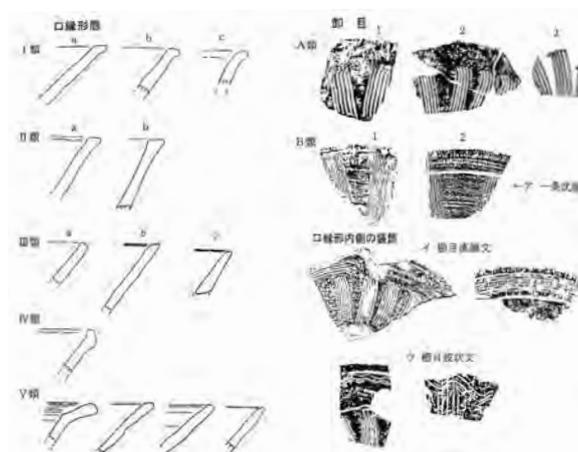


図4 瓦質播鉢の分類図(高桑弘美 2003b より転載)

は珠洲V期(15世紀前半)に位置付けられる。(高桑2003b)。しかし、良好な一括資料に恵まれないことや、共伴遺物の検討なども踏まえて、慎重を期す必要がある。

5 大和産瓦質土器との比較

大和産の瓦質土器の特徴を以下に提示し、これを踏まえ、各々の瓦質土器について検証する。

<大和の瓦質土器の特徴>

- ① 燻し: 基本的に黒色でムラが少ない。
- ② 焼成: 灰白色・クリームがかった灰褐色。(断面形で中心が黒く、外側が灰白色を呈するサンドイッチ構造のものはない。)
- ③ 胎土: 精良で長石・石英の小片、微細なものを含む。角閃石や大きな雲母含まない。白色または灰白色で、チョーク質である。
- ④ 底部調整: 例外なく離れ砂(砂底)を使用する。



写真1 土器断面のから見る焼成状況



図5 陶器と瓦質播鉢(高桑弘美 2003b)より転載

- ⑤ 調整技法：内面は縦方向の粗いヘラミガキ、口縁部付近は横方向、スタンプ部分は押印の後にヘラミガキをするが、スタンプを磨きつぶさないように避けている。

上に記した大和産瓦質土器の特徴と両遺跡出土のものとを比較すると以下のようになる。

瓦質播鉢では、表面の燻しが良好のものとは燻しを施さないものが存在する。胎土観察からは、石英を多く含む点や、断面の中心部がサンドイッチ構造(写真1)を示すものが存在し、②・③を満たさない。また播鉢の底部には、離れ砂の痕跡が認められず④を満たさない。

風炉については、胎土観察から海面骨針を多く含む点や個別的な幾つかの差異が見受けられるが、内外面の調整や突帯の貼り付け後のナデ調整など大和産のものとは共通する点も見受けられる。

6 瓦質土器と遺跡の関係性

瓦質土器の器種構成において、両遺跡間でも差異が見受けられた。下大曾根遺跡では播鉢のみの出土であったが、上野遺跡では風炉の出土が主体を占めている。この様相は、越後の出土遺跡例にも見受けられ、風炉や火鉢の出土遺跡の分析から、城館跡と村落遺跡で出土数に厳然とした差があることが明らかとなっている。特に風炉は、村落では認められず、国人領主の家臣や寺院の生活様式との関連が指摘される。すなわち、瓦質土器の器種構成からもある程度、遺跡の性格や階層性が窺えるよう

である。(水澤 1999、中土器研 2008)。

県内でも風炉出土の遺跡は、城館跡・寺院跡に多い傾向がある。しかし、戦時の備えである城館の性格上、日常雑器の播鉢類が多く出土する城館もある。今回検討した上野遺跡は、石組の池など庭園を設えた館跡であり、戦時面の要素に乏しい。天目茶碗をはじめとする奢侈品と風炉が主体を占める様相からは、館跡が国人領主層によって営まれたと推測できる。

播鉢は、分類したⅢ類 a の播鉢に、瓦質焼成(図3-5)と土師質焼成のもの(図2-1)が存在することから、珠洲IV期の早い時期から、播鉢の在地生産が開始されていたと考えられる。

大和産瓦質土器との共通性については、風炉には、いくつか共通性が見受けられた。これは風炉がある程度広域に流通していたか、器種の規範性が高かったことがその要因と推測される。一方、播鉢には大和産との共通性は薄く、比較的、在地的要素が強いように考えられる。

また、下大曾根遺跡出土の瓷器系陶器との関連性がみられる播鉢(図2-4~6)についても、製作時期や技術系譜、共伴遺物などの検討が必要である。

本稿は、下大曾根遺跡の調査報告書執筆に際して行った資料比較検討時の成果を基としている。今後更なる検討を加え、本報告でまとめたと考えている。

(山木 巧)

註1) 下大曾根遺跡発掘調査の資料比較検討のため、第27回中世土器研究会に参加した。会場にて、各地域の研究者の方々より遺物を実見して頂き、多大なるご教示を頂いた。ここに感謝を申し上げる。

引用参考文献

- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2006『上野遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター第149集
 中世土器研究会 2008『第27回中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着-瓦質土器を考える(後編)-』
 鋤柄俊夫 1995『10 瓦質土器-各地の瓦質土器』『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
 高桑 登 2003『奥羽南半における「伊達氏系遺物」の分布について』『山形県埋蔵文化財センター研究紀要』創刊号
 高桑 登 2007『東北の瓦質土器』『第26回中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着-瓦質土器を考える(前編)-』日本中世土器研究会
 高桑弘美 2003a『5 瓦質土器』『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
 高桑弘美 2003b『山形県内出土の瓦質土器』『山形県埋蔵文化財センター研究紀要』創刊号
 水澤幸一 1999『瓦器、その城館的なもの -北東日本の事例から-』『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第9集

ISSN 1341-397X

年 報

平成20年度

2009年5月29日 発行

発 行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161
山形県上山市弁天二丁目15番1号
☎023-672-5301(代)

印 刷 (株)大 風 印 刷
